

# 新時代に対応した高等学校改革推進事業 (普通科改革支援事業)

2025年度(令和7年度)第2年次 実施報告書



島根県立津和野高等学校

## 目次

	ページ
巻頭言 「未来共創」～はじめの一步～ 校長 松田哉……………	1
本報告書の構成……………	2
I 事業の概要（令和5年度末 申請時）……………	3
i 新学科を設置する学校名および設置年度	
ii 申請時以前の本校における教育実践の概要と展望	
iii 新学科設置の必要性	
iv 新学科設置の目的・目標	
v 運営指導委員会の体制および取組内容	
vi コンソーシアムの体制および関係機関との連携方法	
vii 特色あるカリキュラムの内容について	
II 令和6年度の取り組み……………	1 1
III 本年度の成果報告……………	1 3
i 育てたい生徒像検証のための取組	
ii 各組織の取組	
iii 授業改善への取組	
iv 地域と連携した取組	
v 情報活用能力育成のための取組	
vi 新学科の広報活動についての取組	
IV 令和8年度に向けて……………	1 3 1
i 成果と課題	
ii 10年を見通した学校運営について	
V <資料編>……………	1 3 6

本校が取り組む「新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）」は、今年度、大きな一步を踏み出しました。予測困難な社会情勢の中、本校ではグランドデザインにおいて「15の資質・能力」の育成を柱に据え、その先に「未来共創の実現」を掲げています。これは、学校が閉じた場に留まるのではなく、多様なステークホルダーと共に問いを立て、新たな価値を創造していくプロセスです。今年度は、この資質・能力を具体的にどう育み、どう評価するかという一連のサイクルにおいて、極めて重要な実践を積み重ねることができました。

15の資質・能力の中でも、現代社会を生き抜く鍵となる「情報活用能力」の育成に向けて、令和8年度より始動する「未来共創科」の学校設定科目のカリキュラム開発に着手いたしました。この開発にあたっては、津和野町役場 および町が誘致したIT企業の皆様に多大なるご協力をいただきました。自治体と先端技術を持つ企業が深く関与することで、単なる操作スキルの習得に留まらない、社会のニーズに即した実践的な学習プログラムを構築することができました。

この「情報活用能力」の育成をより確かなものとするため、今年度の「情報Ⅰ」の授業においても新たな試みを行いました。島根県商工労働部による橋渡し（マッチング）という強力なバックアップの下、IT企業と連携した授業を実現しました。行政の仲介により実現したプロフェッショナルとの接点は、教科書の知識が社会でどう実装されているかを生徒が肌で感じる貴重な機会となり、専門的な視点から情報の扱い方を学ぶ「未来共創」の具体的なモデルケースとなりました。

また、15の資質・能力のうち、他者と繋がり価値を広げるための「表現力・発信力」の育成にも注力いたしました。教科学習や探究学習の成果を校内だけに留めず、地域の方々や大学の先生方を前にして発表する場を設けました。多様な背景を持つ大人たちに対して自らの考えを言語化し、ICTツールを駆使してプレゼンテーションを行う経験は、参加した方々からの温かくも鋭いフィードバックを得ることで、生徒たちの発信意欲と自信を大きく引き出すことにつながりました。

こうした諸活動を通じて育まれる資質・能力を、単なる主観に留めず客観的に捉えるため、今年度は独自のルーブリックを作成いたしました。毎学期末、生徒はこの指標をもとに自らの学びを振り返り（リフレクション）、現在地と共に自らの成長を確認します。「何ができるようになったのか」「次にどの能力を伸ばしたいか」を自覚するこのサイクルこそが、15の資質・能力を血肉化し、自律的な学習者を育てるための核となります。

津和野高校は、これからも伝統を尊びつつ、多様なステークホルダーと協働しながら「未来共創」の学びを推進してまいります。本事業の推進にあたり、多大なるご支援をいただいております地域の皆様、関係諸機関の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本報告書が次代の高校教育のあり方を示す一助となれば幸いです。

## 本報告書の構成

「Ⅰ 事業の概要」では、本事業の概要について、令和5年度申請時のものを示した。

「Ⅱ 令和6年度の取り組み」では、昨年度の取り組みの概要を示した。

「Ⅲ 本年度の成果報告」では、令和7年度の事業の取組内容と成果を示した。主な内容は以下の通りである。

### 1. 校内での改革

(1)改革の柱の1つである授業改善について、教科横断的な授業を取り入れることで組織的な取り組みを推進したこと。また、課外での学習会等の取り組みも行ったこと。

### 2. 連携企業、行政との連携

(1)教育課程内の授業に企業の方に入っただき、学校での学びと実社会を繋げていただいたこと。

(2)生徒の資格取得やスキルアップのための講座を、連携企業の方をお願いしたこと。

(3)次年度から始まる学校設定科目の授業内容を作成したこと。

(4)企業の方との連携体制を推進するための、コンソーシアム設立を準備したこと。

### 3. 取り組みの普及

(1)公開授業や講習会に校外の方に参加していただいたこと。

(2)探究成果発表会に校外の方を招待したこと。

(3)中学生への学校説明会を充実させたこと。

「Ⅲ 今後に向けて」では、令和8年度に向けて今年度の成果と課題を整理し、次年度の構想を示した。また、令和8年度以降の体制についても示している。

巻末に参考資料として、本年度活用した各種資料を掲載している。

企業や行政の方と本校が一体となって、未来共創科の学びを具現化していった過程についてご確認いただきたい。

※本書は令和8年2月末時点での内容を記載しており、3月以降に実施されるものは、その予定を記している。

## I 事業の概要（令和5年度末 申請時）

i 新学科を設置する学校名および設置年度

公立・私立・ 国立・株立の 別	学校名 (ふりがな)	学科の種類	設置年度
公立	島根県立津和野高等学校 (しまねけんりつわのこうとうがっこう)	その他普通科	令和7年度

## ii 申請時以前の本校における教育実践の概要と展望

少子化や過疎化により生徒数が減少する中で、島根県が推進している「しまね留学」に当初から参加し、県外からの生徒も積極的に受け入れた。また、地域とのつながりも重視し、魅力化コーディネーターにも積極的に教育活動に関わる仕組みを整えた。様々な人と共に学ぶことで、多様な価値観を認める土壌を作り上げた。そして、多様な新しい時代に対応するために、以下のような取り組みを行ってきた。平成31年度から令和3年度まで、島根県教育委員会の「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善事業」において、「研究拠点校」として県内2校のうちの1校に指定された。この事業においては、東京大学 CoREF（現 一般社団法人教育環境デザイン研究所 CoREF 部門）の協力の下、本校在籍の研究推進教員を中心に「知識構成型ジグソー法」を用いた授業改善に取り組んだ。この事業を通して、建設的互換作用により授業中に生徒が対話を通して学びを深める方法について試行錯誤を繰り返し、校内に展開した。

この事業の後継事業である「授業力向上プロジェクト」（令和4年度から令和6年度まで）において、県教育委員会のマイスター認定を受けている本校教員が関与するほか、本年度は2名の若手教員が研究推進教員として協調学習の推進に取り組んでいる。

また、ICT を活用した学びについても先進的に取り組み、令和2年度から3年度まで島根県教育委員会の「ICT モデル校事業」において、「研究拠点校」として県内3校のうちの1校に指定された。この事業においては、合同会社LINK ALL 様の助言を受けながら、「ICT 活用を通じた生徒主体の学び」の実現を目指し、ICT を活用した効果的な学びについて研究を深めた。この結果、Google for Education™ の「事例校プログラム」に参加することができた。

さらに、中山間地域という地理的ハンディを克服し、多様な科目の学びを実現するために、文部科学省の「CORE ハイスクール・ネットワーク構想事業」に参加し、「石見オロチネットワーク」の一員として、遠隔授業の受信や配信を行った。

今までの取り組みの中で、多様な視点を持ち、対話的に深く学び、ICT を活用した校内を超えた学びが実現できるようになってきた。ただ、その中で、様々なものに目を向けることははできても、実際何が課題であるかを把握する「客観的に課題発見する力」が生徒全体においてまだ不足していることが見えてきた。また、「課題解決に向けて粘り強く取り組む力」について、総合的な探究の時間や理数科目の学習などにおいてその力を身に付けつつある生徒はいるが、学校全体で見るとまだその力を身に付けることのできない生徒がいることも分かってきた。これらの力は、VUCA 時代を生きる生徒にとって必要不可欠な力であり、それらを身に着けさせることが本校の次の課題である。

そのような中、津和野町において IT を中心とした企業の進出があり、本校の教育への協力体制が構築されることとなった。その企業が持っている「データサイエンス」などのノウハウを活用し、データ分析と課題発見についての授業を学校全体に展開したい。また、プログラミング技術についても援助を受け、プログラミングをして実際の物体を動かす試行錯誤をすることで、粘り強く課題解決に取り組む力を身に付けるプログラムを作り、その力を身に付ける選択肢を増やしたいと考えている。また、地理的ハンディのある津和野町においては、ICT の活用は地域活性化のためには不可欠である。最終的には地域に戻り、IT 人材として地元で活躍する人を育成するために、専門分野の基礎的な内容が学べる科目も開設する。

### iii 新学科設置の必要性

津和野高校（以下、本校という）が位置する島根県津和野町は、令和5年12月に厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が公表した2050年の地域別将来推計人口によると島根県内市町村で2020年比の減少率が53.2%と最も高くなる見通しである。津和野町内の児童生徒数は今後40人前後で推移し、小中学校の一層の小規模化は町内唯一の高校の維持を困難にし、ひいては町の持続可能性を左右しかねない。本校の入学定員は2000年代半ばの5年間で半減して2学級80人となり現在に至っており、数年に一度の頻度で定員を満たすことはあるが、定員割れが常態化している。

このような人口問題をはじめ課題が山積する中山間地域であるが、小規模高校だからこそ提供できる教育の魅力もある。そこで、2011年度からしまね留学を高校魅力化事業の一環として取り入れ、全国から入学してくる生徒により多様性に富んだ生徒集団が形成されている。令和5年度現在で島根県外生の割合は40.5%を占め、親元を離れて寄宿舎や下宿で生活する生徒も45.1%と、育った文化的背景も生活背景も実に多様である。恵まれた自然環境と田舎故に温存された文化や人間関係が、都会育ちの生徒の感性を刺激し、地元の生徒との間で引き起こされる“化学”反応の熱量で町に活気が生まれる。探究学習や放課後の時間を使った課題解決型の活動では、高校魅力化コーディネーターなど教員以外の大人の力も借りながら、学校から地域社会に飛び出していく。高校の方針を「“やってみよう”を“やってみる”にする学校」として打ち出し、生徒の挑戦を学校と地域社会で応援する気風が定着して10年が過ぎた。

しかし、課題の設定や探究の進め方、深め方には工夫する余地があることも事実である。ICT機器を活用することで新しい展開が見えてくるのではないか、そのように考えて本校もこの5年の間に島根県教育委員会の「ICTモデル校事業」や「COREハイスクール・ネットワーク構想事業」の研究指定校として率先して取り組んできており、校務のDX化は県内で先頭を切っていると自負しているが、それによって課題解決型の学習がどこまで深まっているかといえば、まだ緒に就いたばかりである。

一方、津和野町も現行総合戦略（令和2年度～6年度）の中で少子高齢化と人口減少にふれ、基本目標1「定住の基盤となるしごとをつくる」の筆頭に「IT産業を軸とした雇用を創出する」ことをあげており、「高校新卒者あるいはUIターン者を中心にICT技術を習得する機会をつくり」、「誘致企業に人材を供給するための“人材育成の場”の充実」を図ることとしている。近く新たに5社目のIT企業誘致も実現する。高校の教育現場における普通科改革が、町の総合戦略と軌を一にすることで相乗効果を発揮する可能性を感じている。高校の新教育課程で教科「情報」が必須となったこともあり、実践的なデジタル思考や活用を身に付ける環境が津和野の町と高校の間で整いつつある。デジタル社会に適応する人材を養成するという時代の要請に合致した新しい普通科へ転換することは、自然かつ必然の流れだという結論に至った。

#### iv 新学科設置の目的・目標

津和野町唯一の高等学校として、町内のあらゆる生徒を受け入れると同時に、全国各地から本校に興味を持った生徒を受け入れる本校において、入学した生徒を誰一人残さずこれからの時代に対応できる人材として育てる使命がある。また、将来の地域を支える人材育成の場としても期待されている。

多様な背景を持っている「生徒全員」が、これまで地域と関わり地域について学んできた知識を活用し、地域活性化のための課題について仮説を立て、それに基づいたデータを収集、分析、解釈することで客観的かつ具体的に地域活性化の手がかりを提案できる能力を身に付けることを第1の目標としたい。例えば、地域でのアンケートやヒアリングで得たデータや RESAS のデータを分析して解釈することで課題の発見に客観性と具体性が備わる。そして、それらを分かりやすく地元の方に伝える能力を身につけることで、具体的課題の共有ができる能力を身に付けさせたい。

そして発見した課題の解決に「粘り強く」取り組める生徒を育てることが第2の目標である。協調学習の取り組みによって、1人では解決できないような課題を他者と協同的に解決するスキルを身に付けてきた。また、ICT モデル校事業を通して、いち早く生徒が ICT 機器を活用するスキルを高めてきた。これらの基盤を活用し、例えば、プログラミングの結果で現れた不具合をどのように改善につなげたりするかといった試行錯誤を経験させ、粘り強さを自然と身に付けさせたい。

さらに中山間地域という地理的ハンディがある津和野町にとって、IT 技術はそれを克服する切り札であることから、津和野町の総合戦略では IT 企業の誘致が定住の基盤となるしごと創出の筆頭に掲げられている。過疎化が進み、交通基盤が脆弱であるなどといった社会インフラの問題解決や地場産業創出のために IT 技術が期待されている。同時に、地域の問題解決のために地元の課題を具体的に分かりやすく提示できる、データを活用する人材が求められている。これらの期待に応じられる人材となるための素養を、生徒に身に付けさせることが第3の目標である。

この目標を達成するために、新しい学校設定科目を設け、今まで培ってきた普通科教育の上に必要なスキルを身につけるためのプログラムを、地元 IT 企業と協力しながら進めていきたい。この取り組みを通して出来上がった本校生徒と地元企業との繋がりを生徒が卒業した後も IT 技術を活用して維持できるような体制を整え、地元津和野町への人の回帰の流れをつくりたい。

## v 運営指導委員会の体制および取組内容

### 1. 運営指導委員

所属	氏名	主な実績
一般社団法人教育環境デザイン研究所	飯窪真也 (委員長)	主任研究員
合同会社LINK ALL	金澤 浩	島根県教育委員会 ICT モデル校事業アドバイザー
株式会社さとくらし	桜井里子	代表取締役
学校法人東明館学園	神野元基	理事長、校長、中央教育審議会臨時委員(2019～)

### 2. 取組内容

- (1) 学校設定科目の開発に関する指導助言
- (2) 総合的な探究の時間への成果波及のための指導助言
- (3) 事業の進捗と成果の検証
- (4) その他、新学科の設置全般に関する指導助言

## vi コンソーシアムの体制および関係機関との連携方法

### 1. コンソーシアムの構成員

所属	氏名	主な実績
島根県教育委員会	木原和典	教育監
津和野町教育委員会	岩本要二	教育長
津和野町役場つわの暮らし推進課	宮内秀和	課長
津和野町役場つわの暮らし推進課	豊田悠策	企業誘致担当
津和野町教育委員会	楠 寛	高校支援（高校魅力化事業）
津和野町ICT教育推進検討委員会	小田充男	副委員長、 津和野町立日原中学校長
株式会社さとくらし	桜井里子	代表取締役
株式会社タイムカプセル	相澤謙一郎	代表取締役
一般財団法人つわの学びみらい	牛木 力	山形市社会教育委員、山形県 新庄・最上ジモト大学コンソーシアム アドバイザー
津和野高等学校	松田 哉	校長
コーディネーター	宮本善行	教育魅力化、元津和野高校校長

### 2. 関係機関との連携方法

津和野町の誘致 IT 企業、一般財団法人つわの学びみらい、企業誘致に係る行政担当部署、教育にかかわる担当部署により連携、協働するコンソーシアム体制を構築し、事業全般、学校設定科目カリキュラム、総合的な探究の時間の内容について、計画・立案していく。また、事業成果についても検討を加える。

誘致企業が DX 人材育成にかかる講師陣（アドバイザー）として協力することに前向きな意向を示している。プログラミング系、マーケティング系それぞれ特徴を持つ誘致 IT 企業であり、各企業は社会貢献に積極的で、既に町内小中学校においてプログラミング講座や情報モラル講座を実施するなど、ノウハウも持ち教育や人材育成の面での実績もある。

一般財団法人つわの学びみらいは、本校に配置されている教育魅力化コーディネーターを統括しており、本校が10年間積み上げてきた課題解決型学習の授業設計や総合的な探究の時間におけるカリキュラム作成を行い、授業にも参画して成果をあげている。また、企業や住民とのハブ的機能を果たして地域に根差した高校にも寄与している。

本校は Google for Education 事例校として課程内外での IT 端末の日常的な活用が既に浸透している基盤がある。本事業では専門性を持った地域企業人材を講師として招き、プログラミングからマーケティングまでデジタル領域を幅広く学ぶ。デザイン思考とロジカル思考の両方を身に付けたデジタル人材を育成するという目標に向けて、コンソーシアム構成員のそれぞれの強みを融合させ、実践的かつ先進的な教育プログラムが立案できる体制とする。

## vii 特色あるカリキュラムの内容について

現在ある 3 つのコースを維持し、「総合コース」には課題発見と粘り強く課題解決する力を育む科目、「探究コース」には課題発見の科目、「自然科学コース」には課題発見と IT 分野への興味関心を高める新しい学校設定科目を開設し、全生徒が目標を達成できるようにそれぞれのコースの特徴に応じた教育内容とする。

はじめに「総合コース」においては、2 年次に必履修「情報活用」を開設する。外部講師の援助を受けながらビッグデータの収集の仕方やデータ分析の方法について学ぶ。理論を学んだ後に、地域の課題解決といった実際の場面において RESAS などのデータ分析と課題発見に取り組む。想定している内容は、本校生徒の身近な課題から地域社会の抱える課題まで生徒が関心を抱いた課題であるが、例えば高校の魅力を中学生に発信する内容である。web デザインについても同時に学習をする。これらを踏まえ、データ分析をもとにインターネットなどの媒体を用いてオープンスクール等で実際に中学生に学校を紹介し、そこから収集された参加者アンケートなどのデータを分析して次の課題を発見して課題克服に取り組む。こうしてデータに基づいた具体的な課題発見の力を育む。そして、地元 IT 企業等に数日間のインターンシップを行い、現場におけるビッグデータ活用について学ぶ。また、3 年次に選択科目「プログラミング応用」を開設する。外部講師の援助を受けながら個人端末を用い、iOS アプリのプログラミングを学ぶ他、アプリ開発の企画、デザイン、IT ビジネススキルを身につける。実際のアプリを動かす中で試行錯誤を繰り返しながら、粘り強く目標に向かって取り組む力を育成する。

続けて、「探究コース」と「自然科学コース」においては、3 年次に必履修科目「データサイエンス実践」を開設する。この科目においては、外部講師の援助を受けながら実際のビッグデータを分析し、課題の発見や傾向の解明に取り組む実践をする。この学習を通して、2 年次に総合的な探究の時間や理数科目の中で取り組んできた自分自身の課題発見方法についてもう一度見直し、卒業後上級学校等での実践に役立つノウハウを習得することを目的とする。

この他「自然科学コース」においては、理系四年制大学に進学する生徒も多いため、情報系学部やプログラミングへの興味関心を高めるために、2 年次に必履修科目「プログラミング発展」を開設する。具体的な進路志望を定める時期となる 2 年次に、プログラミングでロボットを動かし、評価と改善を繰り返しながらプログラミングの面白さやその必要性について学ぶ。これにより IT 技術への興味関心を高めたい。

また、全授業においてハイブリッド授業が実施できるようにするための保有機材等の活用や、各教員への研修を進めていく。

教育課程外にはなるが、本校にある地域系部活動「グローバル・ラボ」に、プログラミングができる領域を設立し、地元 IT 企業と連携しながら、プログラミングに興味を持った生徒が 1 年次から積極的に学べるような体制を整える。

## Ⅱ 令和6年度の取り組み

令和6年度の取り組みとしては、大きく分けて以下のものが挙げられる。詳細は、『新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）2024年度（令和6年度）第1年次 実施報告書 令和7年3月発行』に記載されている。

## 1. 新学科名およびグランドデザインの策定

新学科名については、本校教員の他に、町内関係者や町内中学生の意見を聞きながら決定した。最終的に、様々な関係先と協働して教育に取り組んでいく新しい普通科をイメージさせるために、「未来共創科」とした。

グランドデザインについては、今までの本校の教育が積み上げてきたものを大切に、その上に新たな展開をするという基本方針の下に、策定をした。今まで取り組んできた教科学習、探究学習、特別活動を下支えするために情報活用を新たな柱として掲げることとした。

また、新学科の内容について町内に周知するために、中学校向け説明会の他に各地区での座談会等を行った。

## 2. 関係先との連携強化

津和野町教育委員会、津和野町つわの暮らし推進課、および地元 IT 企業に加え、島根県商工労働部産業振興課とも連携をし、今後の展開について協議を繰り返した。

## 3. 教育活動への展開

令和8年度に開講を予定している地元 IT 企業と連携して行う学校設定科目について、その内容の大枠を決定した。また、企業の方を講師とした出前講座や課外講座を実施した。

校内における授業改善の取り組みについて、公開授業旬間を設けたりしながら展開した。特に2学期の公開授業においては、新しいグランドデザインに掲げた資質能力を意識したものを行った。

### Ⅲ 本年度の成果報告

## i 育てたい生徒像検証のための取組

### 1. 重点目標としての生徒像

4月2日職員会議にて、校長より以下の4点を重点目標として提示があった。

- (1) 安心・安全の担い手となる生徒
- (2) ICT を活用して表現・発信する生徒
- (3) 協働して価値あるものを創造する生徒
- (4) 自己決定し粘り強く取り組む生徒

### 2. 評価及び検証のためのルーブリック

昨年度作成したグランドデザインに基づき、育てたい資質・能力のルーブリックを作成した。グランドデザインとともにルーブリックを教職員ポータルや生徒ポータルに掲載し、常に確認できる体制を整えた。また、主幹教諭が以下の日程で各学年の生徒に対しルーブリックの説明をし、生徒が現状について回答した。

#### 【日程】

- 1年生：令和7年4月23日（水）
- 2年生：令和7年4月17日（木）
- 3年生：令和7年4月11日（金）

2学期も、同様の項目に生徒が回答した。ルーブリックの全体の傾向が1学期と比較して2学期はどのように変化したかを、12月25日（木）の終業式後に教務主任が5分程度で生徒の前で説明した。内容については以下の通りである。

#### 【説明内容】

- (1) 全ての項目において1学期と比較して伸びている。特に、「知的好奇心」「思考判断力」「自己決定力」「粘り強さ」が伸びている。この理由としては、授業で興味を持ったことについて友人と一緒に思考をして問題解決に取り組んだこと、自分の進路を考えて決めていったこと、様々な発表などに向けて粘り強く取り組んでいったことが考えられる。
- (2) 個人の中で一番多く伸びた資質能力として、「対話力」と答えた人が全体の6分の1位いる。授業などで対話をしながら取り組んでいくことが多かったためであると考えられる。
- (3) 個人の中で一番低い評価がついた資質能力として、「粘り強さ」と答えた人が全体の8分の1位いる。「もう諦めよう」と思ったときに、もう1回取り組んでみたら良いのではないかと。

## ii 各組織の取組

### 1. 運営指導委員会

#### (1) 第1回運営指導委員会

日時：令和7年6月20日（金）13：30～14：30

会場：津和野高等学校

#### 【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
国立教育政策研究所 初等中等教育研究部	総括研究官	飯 窪 真 也
合同会社LINK ALL	カスタマーサクセス担当	金 澤 浩
株式会社さとくらし	代表取締役	桜 井 里 子
島根県教育委員会	改革推進室長	大 庭 莊 平
	企画人事主事	樋 野 大 輔
	企画人事主事	森 山 智 史
津和野高等学校	校長	松 田 哉
	教頭	室 北 俊 之
	主幹教諭	和 崎 陽 子
	普通科改革担当	山 根 幸 久
	普通科改革担当	田 原 義 崇
	コーディネーター	宮 本 善 行

#### 【協議内容】

##### ①今年度の事業内容について

6月10日に行われた第1回コンソーシアム会議にて決定した内容を報告した。委員からは校内体制の構築について質問があり、次年度の授業準備が本格的に始まる2学期以降に向けて各教科より連絡係を選出し、体制を整えていくという回答があった。

##### ②事業報告について

3～5月の月次レポートを利用して、事業報告を行った。

##### ③資質能力ルーブリックについて

4月に各生徒に対して行った結果について共有した。この結果について、委員から「民間での各種調査結果の場合、5段階であれば平均が3程度になっているものが普通である」という指摘があった。ルーブリック作成者からは、3が高3レベルになるように設定されていると回答があった。

別の委員からは、「この数字がどのように推移するかを見るのが大切」という指摘があった。例えば、15の項目のうち、学校全体で重点的に力を入れて数字が伸びたもの/伸びなかったもの、重点項目にしなかったが数字が伸びたもの/伸びなかったものに分類した後、その原因を分析する方法を提案していただいた。また、他の非認知テストと関連付けて分析することや、結果を基にした個々の生徒へのフィードバックが大切であると指摘していただいた。

## (2) 第2回運営指導委員会

日時：令和7年12月16日（火）13：30～14：30

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

### 【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
国立教育政策研究所 初等中等教育研究部	総括研究官	飯 窪 真 也
合同会社LINK ALL	カスタマーサクセス担当	金 澤 浩
株式会社さとくらし	代表取締役	桜 井 里 子
島根県教育委員会	改革推進室長	大 庭 荘 平
	企画人事主事	樋 野 大 輔
	企画人事主事	森 山 智 史
津和野高等学校	校長	松 田 哉
	教頭	室 北 俊 之
	主幹教諭	和 崎 陽 子
	普通科改革担当	山 根 幸 久
	普通科改革担当	田 原 義 崇
	コーディネーター	宮 本 善 行

### 【協議内容】

#### ①授業改善の状況について

6月～11月までの月次レポートを用いて授業改善の状況説明をした。「情報Ⅰ」の授業において、企業の方に出前授業をしていただき、教科書の内容と実社会をつなげる取り組みについて説明した。また、2学期公開授業旬間において、教科横断的な授業を通して各教科の内容を深く理解したり、身近な課題解決に授業を繋げる取り組みについて説明した。運営指導委員より、以下のような助言があった。

ア) 教員も生徒も、グランドデザインと実施した授業がどのように繋がっているかを明示して行った方が、何のために授業をしているのか認識できる。

イ) 教科横断的な取り組みをどのようなタイミングで実施するか、どのように横展開していくかを検討していく必要がある。

ウ) 授業改善の取り組みにおいて「対話力」等が身につけていることは参観してよく分かるが、それらを周知する方法を考えた方が良い。（資質能力ルーブリックの結果を生徒個人に返しているという説明の後）学校全体でどのような資質能力が伸びているかについて、生徒に公表すると学校全体で起こっていることが生徒も認識できて良い。

エ) グランドデザインについての意識付けが大切だと思う。企業では毎月会社の理念についてアンケートを実施し、管理職はその結果に基づいて面談をしている。

#### ②成果の検証について

目標設定に対する検証をするために、生徒向けに実施するアンケートの素案について説明した。運営指導委員より、以下のような助言があった。

ア) (案のような) 質問項目の場合、生徒は達成できていると答えにくい。具体例を示すことによって、生徒自身が達成できていることを実感させた方が良い。

イ) 生徒が、自分の活動を定期的に振り返る機会があると良い。それらを積み上げ振

り返ることによって自己評価にも繋がる。また、進路選択などにも繋がる。

③成果発表会について

次年度が本事業の最終年度になるため、成果発表会を11月に行うことを提案した。日程調整を進めていくこととした。

(3)第3回運営指導委員会

日時：令和8年2月27日（金）13：30～14：30

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
国立教育政策研究所 初等中等教育研究部	総括研究官	飯 窪 真 也
合同会社LINK ALL	カスタマーサクセス担当	金 澤 浩
株式会社さとくらし	代表取締役	桜 井 里 子
学校法人東明館学園	理事長	神 野 元 基
島根県教育委員会	学校企画課長	竹 崎 修 次
	企画人事主事	森 山 智 史
津和野高等学校	校長	松 田 哉
	教頭	室 北 俊 之
	主幹教諭	和 崎 陽 子
	普通科改革担当	山 根 幸 久
	普通科改革担当	田 原 義 崇
	コーディネーター	宮 本 善 行

（オブザーバー参加）

一般社団法人 教育環境デザイン研究所 （埼玉県立鴻巣女子高等学校）	協力研究員	東 條 滋
---	-------	-------

【内容】

①普通科改革支援事業の終了と次年度の予算措置について

学校企画課長より、3カ年の指定事業であったがNEXTハイスクールが始まるため今年度で普通科改革支援事業を終了するという文部科学省からの通知について連絡があった。島根県教育委員会としては、当初の計画通り次年度も事業が進められるように、県独自の予算措置をするという連絡があった。

②令和7年度の取組報告および振り返り

第2回運営指導委員会での助言から、2学期終業式にて育てたい資質能力アンケート結果を生徒に説明したことや、教科学習および探究学習での取り組み、企業の方と連携した課外講座、連携企業から構成されるコンソーシアムの設立について担当者より報告があった。

令和7年度を振り返りとして、授業改善や探究活動の取り組みの推進、各種機関との連携強化、学校設定科目の授業案作成が進んだことが挙げられた。

③学校設定科目について

各回の授業案のテーマを集約した表をもとに、授業内容を確認した。運営指導委

員より、各コマ毎の時間配分が上手くいかない可能性もあるので、数コマまとめて実施し、1つの単元として行った方が良いという指摘や、学んだことを用いて定着させる機会が少ないという指摘があった。

そこで、一般財団法人つわの学びみらいにて学校設定科目で学んだことを深化させる講座や、デジタルについて見識のあるコーディネーターの配置、学んだことを地域の小中学生に教えることを通して、生徒の学びを定着させたいという提案があった。

また校長より、学校設定科目での学習内容を全教員に周知し、教科学習や探究学習で活用させる取り組みを進めるという方針について説明があった。

#### ④令和8年度に向けて

担当者より、今までの取り組みを進めつつ、学校設定科目やコンソーシアムを軌道に乗せ、令和9年度以降も今の形が続くような礎を築くという説明があった。

運営指導委員より、同窓会等を活用して卒業生がどのように社会で活躍しているかを調査することによって、カリキュラムを振り返ることが提案された。また、大学入試の総合選抜に身につけた力を繋げるようにする提案もあった。同時に、「非認知能力」とは何かについて、再定義すべきという提案があった。

最後に次年度も運営指導委員会を開催し、引き続き取り組みを行うことを確認した。また、次年度成果発表会を令和8年11月16日(月)に開催することを確認した。

## 2. コンソーシアム会議等

### (1) 担当者会

日時：令和7年4月3日（木）17：30～18：00

会場：オンライン

#### 【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社さとくらし	代表取締役	桜井里子
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久

#### 【協議内容】

##### ①「情報Ⅰ」の出前講座実施について

昨年度、島根県商工労働部産業振興課と連携して行うこととしたが、その出前講座の依頼先について協議した。「プログラミング」「シミュレーション」「ネットワーク」「セキュリティ」についてはタイムカプセル株式会社相澤謙一郎氏に依頼し、「情報デザイン」については産業振興課に依頼することとした。

##### ②学校設定科目の検討開始時期について

令和8年度開講予定の学校設定科目「情報活用」「データサイエンス実践」について、本校担当者と企業の授業担当者の打ち合わせについて、8月に顔合わせをし、9月から本格的な準備を始めることとした。

##### ③東京企業研修訪問の研修先について

3月に行った研修について報告し、次年度の研修先を共に探すことを確認した。桜井氏より、Tokyo Innovation Baseの紹介があった。

##### ④職業人講話（仮称）の講師について

IT業界にはどのような仕事があるかについて生徒に伝えるために、IT企業で働く人から話を聞く機会を複数回設けることを検討しており、その講師として相澤氏に依頼することとした。

### (2) 担当者会

日時：令和7年4月9日（木）15：30～16：30

会場：津和野高等学校

#### 【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社 Nex-E	ICT推進アドバイザー	大庭成晴
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久
	普通科改革担当	田原義崇

#### 【協議内容】

##### ①デジタル講座について

1学期に行う全8回の講座について、内容の確認をした。初回は顔合わせとデジタル機材の使い方を確認し、その後グループで学校紹介の動画を作成することとした。中学校の説明会用動画は6月初旬までに完成させ、オープンスクール用のものは1学期中に完成させることとした。また、2分間の動画を作成することとした。

### (3) 担当者会

日時：令和7年4月24日（木）15：30～16：30

会場：津和野高等学校

#### 【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社 Nex-E	取締役	熊田 洋子
	ICT 推進アドバイザー	大庭 成晴
一般財団法人つわの学びみらい	広報	内谷 愛
津和野町教育委員会	次長補佐	楠 寛
津和野高等学校	校長	松田 哉
	普通科改革担当	山根 幸久
	普通科改革担当	田原 義崇
	コーディネーター	宮本 善行

#### 【協議内容】

##### ①株式会社 Nex-E と津和野町つわの暮らし推進課との事業について

本年度の事業内容について確認した後、特に以下の講座について協議した。

##### ア) IT パスポート資格取得講座

高校生の参加枠を設け、資格取得を促すことについて協議した。IT パスポートは特に IT 業界における基礎的資格として大切であり、高校生の頃に取得しておくことで就職の際に役立つのみならず、IT や経営についての学ぶ機会になり、知識を深めるきっかけになる。ただ、その資格についてどのように生徒に対して説明していくかについて課題が残るため、講座が始まる8月～9月に間に合うように引き続き協議していくこととした。

##### イ) 探究セミナー

山口県長門市の団体を講師として、探究活動を通じた企業についてのセミナーを高校向けに開催する予定であり、参加に向けて呼びかけていくこととした。

##### ウ) 小学生向けプログラミング講座

個体差のあるロボットを用いて、決められたコースを走らせるようにするプログラミング講座が例年行われており、参加者の小学生に対して高校生が支援するような仕組みを作ることを検討した。事前に校内でプログラミング講座を行い、その上で高校生を参加させるなどといった方法を検討した。

全体を通して、その都度参加を募るだけでは生徒を集めにくいため、個別に声をかけ参加する集団を作ることの必要性や、このようなイベントに参加したい生徒は潜在的にいるなどが意見として挙がった。

##### ②その他の事業について

タイピングの早さを競う大会や、課題解決のコンテストなどを企画することについて検討した。本校生徒の中にはイベント企画に興味を持っている生徒がおり、構想段階から連携することについて協議した。

##### ③探究活動と情報活用のつながりについて

企業でも課題解決の手段として IT が用いられており、探究学習においても同様の形を取り入れていく方向で一致した。

##### ④生徒に対する進路選択の支援について

IT 企業というイメージは、理系出身者がコンピュータに向かってプログラミングするという認識が払拭できていないことが課題として挙げられた。様々な業界において IT の知識を取り入れて事業が展開されていることや、IT 企業の中にも様々な部署があることなどについて説明をしていく必要があることが意見として挙げられた。企業の方との座談会や、IT 企業社員の 1 日という動画を作ることが提案として挙げられた。

また、IT 企業に対する同様のイメージが地域の中にもあり、子どもからその認識を変えたり、普通科改革の意義を公民館単位で説明していくなどの方策が提案された。

⑤企業が求める人材について

IT リテラシーがある人材を求めていることが示され、新しいアプリ等にも躊躇せず扱えるような人材を育てていくことが大切であることを確認した。

⑥拠点作りについて

大庭氏が定期的に働く拠点として、センセイオフィスやふらっとルーム、HAN-KOH が利用できないか検討した。デジタル講座の参加者などが支援を受けやすいような体制作りについて検討していくこととした。

⑦町内の他の企業との連携について

様々な企業と連携し、共創の輪を広げていくことを確認した。

⑧生徒向け企業訪問について

IBM を紹介していただいた。

最後に、定期的に打ち合わせの機会を設けることを確認した。

(4) 担当者会

日時：令和 7 年 5 月 1 日（木）15：30～17：00

会場：津和野高等学校

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
益田教育事務所	派遣社会教育主事	水 上 真 悟
	派遣指導主事	森 元 則 之
津和野町教育委員会	次長補佐	楠 寛
津和野高等学校	普通科改革担当	山 根 幸 久

【協議内容】

①学びの協働ネットワーク協議について

7 月 28 日（月）14：00 より開催される協議に、小中学校教員や公民館職員、学校運営協議会委員などが参加し、コミュニティ・スクールの研修がある。講演会の後、各エリア（6 つ）毎の協議があり、この研修会に高校教員からも 6 名（各エリア 1 人ずつ）の参加依頼があった。地域と共に子どもを育てることについて情報を得たり、高校の事業の説明ができた。関係者とのつながりが構築できるため、参加する体制を校内にて整えることを確認した。

②ICT 活用に関する協力体制について

小中学校における ICT 活用促進の一環として、高校開催の研修を小中学校にも案内することを提案した。AI 活用講座を例として挙げ、公民館主事も参加可能かどうか

かについて、講座を運営している Google for Education に確認することとなった。

また、小中学校と高校が協働して授業等を行い、その中で ICT を活用することで利用促進につなげることを検討した。ツワトークなど既存の枠組みを有効活用し、互いにとって有益な事業は何かについて、校内にて検討し 5 月末に例示することとした。

#### (5) 担当者会

日時：令和 7 年 5 月 9 日（金） 11：00～12：00

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

#### 【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社さとくらし	代表取締役	桜井里子
島根県商工労働部産業振興課	室長	米原陽介
	課長補佐	松田敦
	主幹	森脇翔
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久
	コーディネーター	宮本善行

#### 【協議内容】

##### ①情報 I での連携について

学校から企業の方に授業をお願いしたい分野のうち、プログラミング、シミュレーション、ネットワーク、セキュリティについては総務省の地域力創造アドバイザーに任命されたタイムカプセル株式会社の相澤氏に依頼することを確認した。予算については、アドバイザー事業のものを活用することとした。

情報デザインについては、産業振興課が講師を探し予算も確保することとした。

8 月下旬の実施を目指し、調整していくこととした。

またいずれの講座についても、出前講座のような実施（各項目 2 コマずつ）形態をとり、1 年生 3 クラスに実施していくこととした。

##### ②予算について

どのような予算を活用して普通科改革の各事業を実施するかについて、整理して関係者と共有する必要があることが分かったので、津和野町とも協力しそのリストを作成していくこととした。

##### ③IT 出前講座について

IT 業界の職業について興味関心を高める講座に応募し、実施していくことを確認した。

#### (6) 担当者会

日時：令和 7 年 5 月 23 日（金） 16：00～17：00

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社益田工房	取締役 C00/デザイナー	桑 原 宏 幸
	デザイナー	井 上 高 臣
島根県商工労働部産業振興課	課長補佐	松 田 敦
	主幹	森 脇 翔
津和野高等学校	普通科改革担当	山 根 幸 久
	情報科主任	森 本 正 樹

【協議内容】

①情報Ⅰでの出前授業について

学校側より、「情報デザイン」の單元において実際の現場ではどのようなことに留意しながら作品を作られているかを教えていただきたいという依頼をした。益田工房様より、以前公民館主事を対象としたポスター作りの研修を基に授業をする提案をいただいた。講義に加え、生徒がポスターを作成した後に講師の方からフィードバックをいただく構成で行う方向で検討していただくことになった。また、8月下旬に出前授業を実施していただき、学園祭のポスターを作成して当日に展示することを案として、進めることとした。また、特定のデザインアプリの使い方ではなく、どのアプリでも共通して活用できる技術を学ぶ内容とすることとした。その他、以下の事について決定した。

ア) 1年生3クラスに対し各2コマ実施すること。

イ) 情報科担当教員などが授業のサポートをすること

ウ) 1学期終業式後に、対象クラスでどのような内容を学習したかを企業の方につたえること

(7) 担当者会

日時：令和7年5月23日（金）17：00～17：30

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
島根県商工労働部産業振興課	室長	米 原 陽 介
	課長補佐	松 田 敦
	課長補佐	大 櫃 秀 治
	主幹	森 脇 翔
津和野高等学校	普通科改革担当	山 根 幸 久

【協議内容】

①本校における情報系学校の進学や志望について

本校の進路状況の概要や普通科改革の取組について説明した後、情報系の学校についての認識について協議した。保護者や地域の方に「IT」という言葉を使うとプログラミングからあまり広がらない現状を変えるため、出前講座を保護者参観可能にするといった方策について、今後検討することにした。

(8) 担当者会

日時：令和7年6月5日（木）13：00～13：45

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社ユニオンシンク	代表取締役社長	西谷 洋志
	管理部部長	米倉 奈緒子
島根県商工労働部産業振興課	主幹	森 脇 翔
	IT出前講座担当	守田 佳世
津和野高等学校	普通科改革担当	山根 幸久
	情報科主任	森本 正樹

【協議内容】

①IT（出前講座）について

本校より依頼をした、IT業界について学ぶ出前講座について協議をした。対象は1、2年生とし、各クラスごとに各50分の授業を行っていただくことになった。内容としては、IT業界というとプログラミングが想像されるが、実際は幅広いことが学べるようにすることとなった。また保護者にも公開し、理解を深めてもらえるような機会にすることを確認した。

(9) 第1回コンソーシアム会議

日時：令和7年6月10日（火）13：30～14：30

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
島根県教育委員会	教育監	伊藤 康子
津和野町つわの暮らし推進課	課長	宮内 秀和
	企業誘致担当	豊田 悠策
津和野町教育委員会	教育長	岩本 要二
	教育次長	山本 博之
	次長補佐	楠 寛
津和野町ICT教育推進検討委員会	副委員長	小田 充男
株式会社さとくらし	代表取締役	桜井 里子
タイムカプセル株式会社	代表取締役	相澤 謙一郎
津和野高等学校	校長	松田 哉
	普通科改革担当	山根 幸久
	コーディネーター	宮本 善行

【協議内容】

①事業報告について

3～5月の月次レポートを利用して、事業報告を行った。

②今年度の事業内容について

コアチーム会を定期的に行い進捗状況を確認することや、校内での諸会議を随時

行うことで事業を進めていくことを確認した。また、公開授業や研修、中学校向けの説明会を昨年度に引き続き行うことや、新たに情報Ⅰでの出前授業、学校設定科目実施に向けた各コマの授業案の作成、課外での各種講座を行うことを確認した。さらに、指定終了後の予算について本格的に検討していくことを確認した。

教育課程内で情報活用能力を育成すると同時に、教育課程外で卓越した人材を育成していくことを確認した。

委員より、町全体でデジタル人材の育成をしていけるように元町営寮である「ひまわり」を利用していくことが情報提供された。

デジタルを活用して今までの各取り組みが深化できるように、事業を進めることを目標とした。また、外部機関と連携して取り組んだ内容を学校の教育課程内に組み込むことが意識されている計画になっており、引き続きこの形で取り組むことが大切であることを確認した。

### ③その他

委員より、トークフォークダンスで生徒が積極的に話しているが、入学時の様子も同様かという質問があった。入学後、学校の雰囲気も影響して積極的になり、今の生徒の方が以前よりより積極的であるという回答があった。

また、総合的な探究の時間において3年生が1年生に発表する計画があることについて、地域にその様子を公開するか質問があった。今後検討していくという回答があった。

最後に、固定観念に捉われずに様々なことに挑戦する生徒を育てること、連携先と情報共有が円滑にできる体制を整えることを確認して会議を終えた。

### (10)担当者会

日時：令和7年6月30日（月）16：00～16：30

会場：オンライン

#### 【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社Willさんいん	代表取締役	金 築 理 恵
株式会社Nex-E	ICT推進アドバイザー	大 庭 成 晴
津和野高等学校	普通科改革担当	山 根 幸 久

#### 【協議内容】

##### ①デジタル推進員（デジタル庁の資格）取得講座について

資格取得講座について、以下のような概要を説明していただいた。

第1回 デジタル推進員について

第2回 デジタル活用イベントの実施計画

～地域向けデジタル活用イベントの実施～

第3回 デジタル活用イベント振り返り

これらの講座を受講した後、申請して受理されるとデジタル推進員の資格取得ができる。講座は大庭氏を講師として校内で実施可能であること、タイピング大会を実施した生徒たちが資格取得に対して前向きであったことを考慮し、本年度実施を校内にて検討し、承認されれば本年度中に実施することとした。

(11) 担当者会

日時：令和7年7月7日（月）14：30～15：30

会場：津和野高等学校

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社 Nex-E	取締役	熊田洋子
	ICT推進アドバイザー	大庭成晴
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久

【協議内容】

① 1学期に行った事業について

6月14日に行ったタイピング大会について、課題点も残ったが、短期間の準備で実施できたこと、盛り上がる大会を実施できたこと、新たな機材を購入せずに校内にあるものを使って工夫して実施できたことなどが評価できることを確認した。また、次年度も継続して大会が行える体制を整えることとした。

また、デジタル講座についても生徒の作品が完成に近づいており、オープンスクールにて発表できる見通しであることを確認した。

② 2学期の事業について

株式会社 Nex-E 様より、IT パスポート資格取得講座、ビジネスマナー講座の開催および Nex-E 様主催のタイピング講座（11月実施予定）への協力依頼があった。詳細を今後調整していくこととした。

(12) 担当者会

日時：令和7年7月23日（水）15：30～16：30

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社益田工房	デザイナー	井上高臣
島根県商工労働部産業振興課	主幹	森脇翔
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久
	情報科主任	森本正樹

【協議内容】

① 出前講座について

8月21日（木）に1年生を対象として実施することを確認した。内容としては、1限に学年全体に対して講義の後、2～4限に各クラスごとに演習を行うこととし、情報デザインについて扱うこととした。当日の資料として、本校生徒が作成したチラシ等を用い、デザインについて考えることとした。また、生徒の個人端末を活用して演習をすることとした。保護者にも公開することとした。

最後に、全体講義の会場である視聴覚教室、演習の会場である Amane を下見した。

(13) 第1回普通科改革教科連絡会

日時：令和7年8月19日（火）12：00～12：20

会場：津和野高等学校

【参加者】

ア) 校内各教科の普通科改革連絡係

イ) 主幹教諭

ウ) 普通科改革担当

【協議内容】

① 学校設定科目と総合的な探究の時間への各教科の関わり方について

昨年度の第1回、第5回教科主任会にて取り上げた以下の形で各教科が関わっていくことを再確認した。

ア) 総合コースの学校設定科目---保健体育、芸術、英語

イ) 探究、自然科学コースの学校設定科目---数学、理科、情報

ウ) 総合的な探究の時間主担当---主幹教諭、地歴公民、国語（伴走は全員）

次年度より開講される2年生総合コース「情報活用（3単位）」、2年生探究・自然科学コース「データサイエンス実践（1単位）」について、9月より各授業毎の具体的内容について、検討開始することを確認した。授業検討の担当者については、各科目の担当教科内で決定することとした。

(14) 担当者会

日時：令和7年8月20日（水）11：00～11：50

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社益田工房	デザイナー	井上高臣
島根県商工労働部産業振興課	主幹	森脇翔
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久
	情報科主任	森本正樹

【協議内容】

① 出前講座について

授業内容についての最終検討をした。当日の資料を確認しながら学校側が準備することなどを確認した。

(15) 担当者会

日時：令和7年9月1日（月）14：00～15：00

会場：オンライン

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社益田工房	デザイナー	井上高臣
島根県商工労働部産業振興課	主幹	森脇翔
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久

【協議内容】

① 8月21日実施の出前講座について

事後の振り返りアンケートの生徒の記述から、講座の内容について生徒の満足度が高いことを確認した。チラシ作りについて学んだことを、部活動でイベントをする際に役立てたいという記述もあり、生徒の今後の活動に繋がりのある内容であることが分かった。

② 今後の事業について

今年度、他の分野での出前講座実施について検討した。web デザインの分野を候補として、実施を検討することとした。

また、企業訪問を実施している県内の高校もあり、本校での実施について検討することとした。

(16) 第1回 学校設定科目打ち合わせ

日時：令和7年9月22日（月）16：30～17：00

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

企業：株式会社さとくらし 代表取締役 桜井里子

学校：学校設定科目担当者7名、普通科改革担当

【協議内容】

① 学校設定科目の授業実施日について

桜井氏より、授業毎に企業担当者が訪問することは難しいので、数時間まとめて実施することや、実施日を早期（12月位）に確定することはできるか問い合わせがあった。実施する授業内容もその可否に影響してくるため、内容設計と同時進行で検討していくこととした。

② 学校設定科目の内容について

1コマの授業毎の実施計画を作成していくことを確認した。Canva を使って作成し、意見等を各自がコメント機能を用いて伝えることとした。特に、授業の進捗については学校で検討する必要があることを確認した。

(17) 担当者会

日時：令和7年10月14日（火）16：00～17：00

会場：津和野高等学校

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
津和野町つわの暮らし推進課	企業誘致担当	豊田 悠 策
津和野町教育委員会	次長補佐	楠 寛
津和野高等学校	普通科改革担当	山根 幸久
	コーディネーター	宮本 善行

【協議内容】

① 事業費について

次年度以降の事業費について検討した。特に、学校設定科目を企業の方に依頼す

ることについて、授業準備を含めた費用の支出方法を協議した。また、指定事業終了後にどのように予算を確保するかについても確認した。現在までの支出方法と今後の展望について、普通科改革担当がまとめて提示することとした。

②交流施設について

12月開業予定のIT事業者の拠点施設について、その活用方法を学校としても検討していくこととした。

(18)担当者会

日時：令和7年10月15日（火）9：00～9：50

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

株式会社 Stapia 代表取締役 平岡慎也、吉賀/津和野高等学校英語科

【協議内容】

11月に平岡氏を講師として両校で行う授業について、打ち合わせをした。生徒たちの視野を広げることと、学習意欲向上という授業の目的を再確認し、実施方法やワークシートの作成について協議した。

(19)担当者会

日時：令和7年10月21日（火）13：00～13：40

会場：オンライン

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社さとくらし	代表取締役	桜井里子
島根県商工労働部産業振興課	主幹	森脇翔
津和野町教育委員会	次長補佐	楠寛
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久
	コーディネーター	宮本善行

【協議内容】

①事業費について

次年度、産業振興課、津和野町、本校それぞれがどの事業の経費を担当するかについて確認した。この協議をもとに、予算関係の概要を普通科改革担当がまとめ、共有することとした。

(20)担当者会

日時：令和7年10月23日（木）14：30～16：00

会場：津和野高等学校

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
タイムカプセル株式会社	代表取締役	相澤謙一郎
津和野町教育委員会	次長補佐	楠寛
津和野高等学校	普通科改革担当	山根幸久

【協議内容】

①今後の事業展開について

相澤氏に今後依頼することを確認した。学校設定科目の他、生徒向けプログラミング講座についても実施する方向で調整することとした。

(21) 担当者会

日時：令和7年12月19日（金）14：30～15：00

会場：津和野高等学校

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
津和野町教育委員会	次長補佐	楠 寛
津和野高等学校	普通科改革担当	山根 幸久

【協議内容】

①次年度以降の予算について

学校設定科目の授業および教材開発、課外講座（デジタル活用、プログラミング）のための費用について、どのような形で支出するかを検討した。

(22) 担当者会

日時：令和7年12月25日（木）13：00～13：30

会場：オンライン

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
株式会社クリエット	代表取締役	工 藤 良
	取締役	片 山 颯 斗
島根県商工労働部産業振興課	主幹	森 脇 翔
津和野高等学校	普通科改革担当	山根 幸久

【協議内容】

①「情報Ⅰ」におけるデータ活用の出前講座について

2月または3月の特定の1日に、1年生および2年生各クラスに対し各1時間の授業をしていただくこととした。授業実施までにどのようなことを生徒が学習しているかなどについて、情報交換していくことを確認した。また、授業実施の候補日を2月26日（木）、3月12日（木）とすることとした。

(23) 第1回探究学習検討会

日時：令和8年1月23日（金）11：00～12：00

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
合同会社LINK ALL	カスタマーサクセス担当	金 澤 浩
津和野高等学校	主幹教諭	和 崎 陽 子
	1年部	川 上 真
		日 高 史 和
		雪 野 真優子
	コーディネーター	牛 木 力
		瀬 戸 里 奈

【協議内容】

①次年度の総合的な探究の時間の計画について

探究計画策定にあたり、普通科改革支援事業運営指導委員の金澤浩氏をアドバイザーとして招き、探究学習について、今年度までの動きと次年度の予定について協議した。金澤氏より、文部科学省が定義している「情報活用能力を構成する3観点8要素」の要素を活動に盛り込んではどうかという提案をいただいた。

(24) 担当者会

日時：令和8年2月2日（月）15：30～16：00

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
クリエイット	代表取締役	工 藤 良
	取締役	片 山 颯 斗
津和野高等学校	普通科改革担当	山 根 幸 久
	情報担当	森 本 正 樹

【協議内容】

①2月26日実施の出前講座について

授業案および日程を確認した。生徒が活動をする際、会話をしやすくするために、ワークシートを活用することを確認し、作成を依頼した。

(25)第2回コンソーシアム会議

日時：令和8年2月3日（火）16：00～17：00

会場：津和野高等学校

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
島根県教育委員会	改革推進室長	大庭 莊 平
津和野町つわの暮らし推進課	課長	山本 早 苗
	企業誘致担当	豊田 悠 策
津和野町教育委員会	教育長	岩本 要 二
	次長補佐	楠 寛
株式会社さとくらし	代表取締役	桜井 里 子
タイムカプセル株式会社	代表取締役	相澤 謙一郎
津和野高等学校	校長	松田 哉
	普通科改革担当	山根 幸 久
	コーディネーター	宮本 善 行

（オブザーバー参加）

株式会社 Nex-E	取締役	熊田 洋 子
	ICT推進アドバイザー	大庭 成 晴
バルトソフトウェア株式会社	シニアソフトウェアエンジニア	大石 和 也
株式会社アドレス	つわの寮 管理人	青柳 直 希

【協議内容】

①事業報告について

6～11月の月次レポートを利用して、事業報告を行った。

②コンソーシアムの設立について

次年度より学校設定科目の授業も始まるため、その委託先として協力企業のコンソーシアムを設立する提案があった。委員より、「個性のある企業が情報交換をする機会を作りたい」、「データを通して町に繋がりを持たせたい」、「企業の課題を生徒と共有して本物の学びを実現したい」という肯定的な意見が相次ぎ、設立することが決まった。幹事会社を株式会社さとくらしとし、詳細を学校およびコーディネーターと検討していくことにした。

(26) 第2回探究学習検討会

日時：令和8年2月19日（木）13：00～14：00

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
合同会社LINK ALL	カスタマーサクセス担当	金 澤 浩
津和野高等学校	主幹教諭	和 崎 陽 子
	1年部	佐々利 毅
		日 高 史 和
		雪 野 真優子
	コーディネーター	牛 木 力
		瀬 戸 里 奈
		宅 野 晃 裕

（オブザーバー参加）

津和野高等学校	普通科改革担当	山 根 幸 久
---------	---------	---------

【協議内容】

①探究成果発表会について

金澤氏より、探究自体が深まっており、生徒が探究活動に取り組んだ後のことまで考えていることが良いという指摘があった。一方、何となく探究のテーマを決めている生徒もいたので、探究の目的をはっきりさせると自走できるのではないかと、という指摘もあった。

②次年度の2年生探究活動案について

校内担当者より、総合、自然科学コースはブリコラージュゼミ企画を中心に実施すること、探究コースは他の2コースと一緒にブリコラージュゼミを実施すること、個人探究を行うという案が示された。また、前回指摘のあった情報教育について、「情報教育において育む資質・能力（文部科学省）」に書かれている、「主体的な情報発信」「受け手の立場を考慮」「情報発信の振り返り」「情報モラルの考慮」についてチェックリストを作成し、ブリコラージュゼミの設計時に活用する案が示された。金澤氏より、チェックリストについてはゼミの受け手の目線も加えるとさらに良いこと、ブリコラージュゼミを行った後に質の高い振り返りを行うことが大切であると指摘された。

また、次年度企業の方と連携して行う学校設定科目の内容を考慮しながら、次年度の授業案を設計していくことも確認した。

(27) 第3回探究学習検討会

日時：令和8年2月24日（火）14：00～15：00

会場：津和野高等学校（ハイブリッド）

【参加者（敬称略）】

所属	役職	氏名
合同会社 LINK ALL	カスタマーサクセス担当	金 澤 浩
津和野高等学校	主幹教諭	和 崎 陽 子
	1年部	佐々利 毅
		日 高 史 和
	コーディネーター	牛 木 力

【協議内容】

①次年度2年生の探究活動について

地域の方の講座を1回行った後、自分たちで講座を2回行う内容とした。

②探究活動を行う際の留意点について

効果的なアンケート調査を行うために生徒向けの講座をする必要があることや、探究に目的を持たせるための仕掛けについて検討していくこととなった。また、伴走者の果たす役割が大きくなるため、伴走者向け研修の必要性も議論した。

### iii 授業改善への取組

#### 1. 公開授業旬間の実施

ICT モデル校事業を契機に、1 学期と 2 学期に毎年行っている。授業参観者は、ICT モデル校事業の成果物である ICT 活用チェック表の一部を載せた公開授業参観シートを記入し、提出することとしている。

#### (1) 1 学期

「ICT を生徒が活用することにより、生徒が主体的に学ぶ授業」をテーマとし、全授業担当者が公開授業を行った。またランドデザインにある育てたい資質・能力のうち、どの部分を身につけることを狙った授業であるかを事前に共有をした。

#### 【実施期間】

令和 7 年 6 月 9 日（月）～6 月 18 日（水）

#### 【実施内容】以下の通り

期日	時間	科目	実施クラス	教室	担当者	授業内容	生徒が個人端末を使う場面	資質能力
6月10日(火)	4	生物	3年自然科学	3-3	福満 尚	mRNAワクチンについて	授業時間中 終始	情報活用能力
6月10日(火)	4	cII (英語)	2年2組	2-2	伊藤 瑞希	My Top Pick for Japanese Food～私の“推し”日本食～	発表練習場面	創造力
6月10日(火)	7	cII (英語)	2年1組	2-1	和崎 陽子	My Top Pick for Japanese Food～私の“推し”日本食～	発表練習場面	創造力
6月11日(水)	1	公共	2年1組	2-1	陶山 晋太郎	民主政治(3年生生徒と共に行う政治的関心を高める取り組み)	ディベートの判定、資料の閲覧	思考判断力
6月11日(水)	1	情報 I	1年2組	Amene	森本 正樹	社会の情報化(AI)	生成AIの体験、資料の閲覧、考えをまとめる	情報活用能力
6月11日(水)	4	数学B	3年Yコース	3-2	舟木 亮介	二項分布、正規分布	実験結果をまとめる場面	知的好奇心
6月11日(水)	4	体育	2年女子	体育館	石原 菜那	バレーボール	フォームの確認、振り返り	知識・技能
6月11日(水)/ 6月12日(木)	6/ 6	体育	1年13組/ 1年12組	グラウンド	植田 悟	短距離走(100m走)の練習・計測	事前に動画を視聴してフォームを確認させたり、モチベーションをアップさせたりする。	知的好奇心
6月12日(木)	5	地理総合	1年2組	1-2	宮島 忠史	Web GIS を使ってみよう	演習問題に取り組む場面	情報活用能力
6月12日(木)	6	古典探究	2年探究自然科学	23教室	安達 美穂	病膏肓に入る(漢文)の復習、現代での具体的な使用例	情報を共有する場面	思考判断力
6月13日(金)	4	古典探究	3年探究	34教室	青木 穂乃美	思想(漢文)	資料を参照する場面、振り返り	協働性
6月13日(金)	4	音楽 I	1年23組	音楽教室	田原 義崇	自分の好きな音楽を紹介しよう	発表場面(グループスライド)	表現力
6月13日(金)	4	世界史探究	2年選択者	2-1	室北 俊之	中国の古代から中世にかけての社会変動	ふりかえりの共有、問いに対する答えの記入	表現力
6月13日(金)	4	美術 I	1年23組	美術教室	藤田 巧	オリジナルマークをつくる	アイデアを練る場面	創造力
6月16日(月)	1	数学 I	1年2コース	1-1	引野 恭也	2次元関数のグラフをかく	グラフを作成する場面、資料を参照する場面、振り返り	知識・技能
6月16日(月)	2	数学 II	2年Yコース	2-1	日高 史和	三角関数の定数とグラフの変化について考える	Geogebra	知識・技能
6月16日(月)	5	BEa (英語)	2年選択者	2-1	河野 愛	Express more (質問に答えたり、イラストを描写したりしよう)	英語で回答する練習、音声入力、音声データの提出	表現力
6月17日(火)	2	化学基礎	1年2組	化学教室	川上 真	化学結合の分類	解答の共有(スクールタクト)	情報活用能力
6月17日(火)	2	数学III	3年選択者	3-3	寺岡 智弘	媒介変数で表された関数のグラフ	グラフの形を確認する場面	思考判断力
6月17日(火)	3	日本史探究	2年選択者	23教室	佐々利 毅	古代を見通す問1・仮説の検証2回目(第3章の学習をふまえて)	第3章のふりかえり共有(授業前半)、検証2の記入(授業後半)	思考判断力
6月17日(火)	7	言語文化	1年2組	1-2	雪野 真優子	動物の活用	クイズ形式に出題する動物の活用問題を作成する	情報活用能力
6月18日(水)	1	c I (英語)	1年3組	Amane	山根 幸久	日本語と英語の違いから、英語表現について考える	資料閲覧と話し合いや発表の場面	知的好奇心
6月18日(水)	5	物理基礎	2年自然科学	物理教室	深野 勝洋	力学(重力加速度の測定)	実験データの処理	情報活用能力

#### 【分析】

- ①昨年度 2 学期に比べ、「情報活用能力」育成を目指した授業が増えた。
- ②ICT 活用チェック表の平均値が 4.5 (昨年度 2 学期 4.6) であり、ほぼ変化がなかった。
- ③本校の教員のみならず、津和野町教育委員会や保護者の参観もあった。参観した保護者からは、「授業参観している教員が多く、学校全体で生徒一人一人を大切にしようとする姿勢が伺えた」という肯定的な意見をいただいた。
- ④事後アンケート回答者の半分以上が、自分の授業に 5 人以上の参観があったと回答しており、参観者も多かったことが伺える。

#### 【今後の展望】

ICT 活用やランドデザインを意識した公開授業について、定着してきたことが実感できる。次年度の展開に向けて、2 学期の公開授業旬間ではさらに一工夫した形での実施を検討したい。

## 【授業の様子】



## (2) 2 学期

教科横断的な授業を新たなテーマとして設定し、複数の授業でその実践があった。授業実践の詳細は別途記述する。

### 【実施期間】

令和7年11月6日（木）～19日（水）

### 【実施内容】以下の通り

期日	時限	科目	実施クラス	教室	担当者	授業内容	生徒が個人端末を使う場面	資質能力
11月6日(木)	2	数学Ⅰ	1年Z	1-1	引野 恭也	直角三角形を用いて $\sin 75^\circ$ の値を求める ※知識構成型シグゾー法	振り返り	協働性
11月6日(木)	3	英語(BEa)	2年選択者	2-1	河野 愛	賛成か反対か・根拠となるデータの活用	グループで発表原稿を作成	情報活用能力
11月6日(木)	7	化学基礎	1-1	Amane	川上 真	化学反応と量的関係	確認問題(スクールタクト)	表現力
11月6日(木)	7	日本史探究	2年選択者	23教室	佐々利 毅	中世社会への問い・仮説を鎌倉時代について検証する	ふりかえり・検証の記入 (スプレッドシート・ドキュメント)	思考判断力
11月10日(月)	1	数学Ⅱ	2年Y	2-1	日高 史和	接線の傾きとグラフの増減について	接線の傾きと関数のグラフとの関係を、 視覚的に確認する	知的好奇心
11月10日(月)	3	地理探究	2年選択者	2-2	宮島 忠史	日本の第1次産業	資料検索	知的好奇心
11月10日(月)	4	音楽Ⅰ	1-2,3	音楽室	田原 義崇	ポップスの魅力について考えよう	意見集約	対話力
11月11日(火)	5	世界史・英語・音楽	3年選択者	3-1	陶山 晋太郎	音楽から読み解く1960年代	調べ学習、発表の場面	自己理解
11月11日(火)	5	科学と人間生活	1-1	1-1	福満 尚	血液型と献血	振り返り、調べ学習	自他の心身...
11月13日(木)	3	美術Ⅰ	1-1	美術室	福田 巧	作家の心情を考える	振り返り	自己理解
11月13日(木)	3	言語文化	1-2	1-2	雪野 真優子	『伊勢物語』芥川	自分の考えをまとめる	表現力
11月13日(木)	4	世界史探究	2-1,2	2-1	室北 俊之	中世ヨーロッパ社会とは？	振り返り	対話力
11月13日(木)	6	英語(cⅡ)	2-2	2-2	伊藤 瑞希	ピアフィードバック型ライティング	物語の要約と感想を書く場面	思考判断力
11月13日(木)	7	英語(cⅡ)	2-1	2-1	和崎 隼子	自己調整学習に挑戦	期末試験の勉強計画作成	粘り強さ
11月14日(金)	1	論理国語	2-1	2-1	安達 美穂	スキーマと記憶	発表スライド作成	思考判断力
11月14日(金)	2	英語・国語	1-3	Amane	山根 幸久	主題の必要性を文化的背景から考える	グループ協議をする場面	対話力
11月14日(金)	2	古典探究	2年総合	2-1	青木 穂乃美	読解した古文をもとに台本を作成し、劇を行う	台本作成	表現力
11月14日(金)	3,4	数学Ⅱ・情報Ⅰ (2年全員)	Amane	Amane	舟木 亮介 森本 正樹	3次関数のグラフの形を考察する	プログラミングを考える場面、 グループ協議をする場面	情報活用能力
11月14日(金)	5	音楽・保健体育	1-2,3	音楽室	田原 義崇 石原 菜那	音楽が健康に与える影響について考える	意見集約	対話力
11月14日(金)	5	物理基礎	2年自然科学	物理室	深野 勝洋	音の実験	実験処理	情報活用能力
11月18日(火)	1	数学Ⅰ	1年Yβ	1-3	寺岡 智弘	空間図形への応用	立体を様々な角度から眺める	思考判断力
11月18日(火)	4	体育	1-2,3	柔剣道場	植田 悟	体づくり運動(体力を高める運動)	グループで発表内容を作成	思考判断力
11月18日(火)	3,4	特別授業	2年全員	視聴覚室	外部講師	世界に目を向ける	ワークシート記入	知的好奇心
11月18日(火)	5,6	特別授業	1年全員	視聴覚室	外部講師	世界に目を向ける	ワークシート記入	知的好奇心

時限	時間
1限	9:00-9:50
2限	10:00-10:50
3限	11:00-11:50
4限	12:00-12:50
5限	13:25-14:15
6限	14:25-15:15
7限	15:25-16:15

(火・木のみ)

#### (お願い等)

- ・事務室前で受付を済ませ、授業をご参観ください。
- ・掲載されている授業以外についても参観可能です。
- ・体調不良の場合は、来校をお控えください。
- ・時刻割等が変更になる場合があります。お越しの際はホームページにて最新の情報をご確認ください。

## 【分析】

- ①教科横断的な授業が好評であった。
- ②ICT 活用チェック表の平均値が 4.6（昨年度 2 学期 4.6）であり、ほぼ変化がなかった。
- ③校外（保護者含む）の参観者が少なかった。

④授業後に自主的な合評会が開かれることもあった。

【今後の展望】

①教科横断的な授業を行うことで、教員間の対話量が増える印象があったため、今後も続けていきたい。

②校外からの参観者を増やすために、日程や呼びかけなどを工夫したい。

## 2. 授業研究

### (1)有志による授業公開

#### グランドデザインとの関連：対話力

知識構成型ジグソー法の授業を実施するにあたり、有志による授業研究を行った。

#### ①第1回目

日 時：令和7年4月22日（火）11：00～11：50

科目と単元：数学I「因数分解」

担当者：引野恭也教諭

#### 【目標】

ア)知識構成型ジグソー法を利用し、複数の知識を組み合わせて解を考えることで、思考判断力の育成を目指した。

イ)授業後に振り返りをするすることで、情報活用能力の育成を目指した。

#### 【内容】

生徒が1人では答えにたどり着きにくい因数分解の問題について、協働して解を見つける授業内容だった。生徒は入学して間もない状況であったが、互いが持っている情報を有効活用して意見を出し合いながら解を求めている。

#### 【生徒の感想】

ア)今回の授業は、説明をする場面が多く、数学の問題を言語化して解くことは難しいと思いました。しかし、相手に理解してもらいたいと思うと、より問題の内容を理解していなければ伝わらないことがあるので、わからない箇所は周りの人に聞いて積極的に問題解決に取り組むことができました。また、話し合いをする中でわからない箇所を共感し合うことができるので、お互いに連帯感を感じながら仲を深めることもでき、凄く楽しかったです。

イ)自分の問題が難しくて全く解けなかったけどグループの人達と協力して解けるようになって自分も周りの人も問題をより理解することができる事がわかった。

ウ)勉強したことを説明することを頻繁にやると問題の理解が深まると思い、説明することは大切だと思った。

#### 【授業の様子】



## ②第2回目

日 時：令和7年5月1日（木）12:00～12:50

科目と単元：数学I「式と計算」

担当者：引野恭也教諭

### 【目標】

7) 知識構成型ジグソー法を利用し、複数の知識を組み合わせることで、思考判断力の育成を目指した。

1) グループワーク中心の授業を通して、協働性の育成を目指した。

### 【内容】

3次式に値を代入し解を求める問題について、生徒が1人では考えにくい簡単に解を見つける方法を、分母の有理化、公式、対称式という資料をそれぞれ学習した生徒が集まり、解を簡単に求める方法をグループで考えた。ある生徒は、授業者が想定した方法で解いていなかったが、計算途中で同じ数字が出たことから値を代入する前にもう少し式変形をすれば良かったことに気づき本来の解法に近付いていた。

また、グループ活動の時に1人が計算をすると効率が悪くことに気づき、次の計算では各自がそれぞれ計算をして互いを補完する方法に修正したり、グループ活動の前半でのワークシートの解き方では全員が考えにくいことが気づき、後に修正するという場面も見られた。このように授業の活動を通して、試行錯誤を重ねて解を発見したり、他者と協力して課題解決をするために必要なスキルを身につけている姿が見られた。

### 【授業の様子】



(2) 島根県教育庁学校教育課「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業力向上プロジェクト事業」に係る公開授業

グランドデザインとの関連：対話力

本校は、令和元年度より始まった上記事業の前事業である「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善プロジェクト事業」への参加を含め、本年度で7年目の参加となる。本年度は2名の教員が研究推進教員として参加した。

なお公開授業当日には、町内小中学校の教員（小学校1名、中学校1名）、町教育委員会（3名）、連携地元企業（2名）からも参加者があった。

①事前授業検討会

【実施日】

令和7年9月5日（金）14：25～15：40

【参加者】

授業者2名、授業体験者6名

【実施内容】

それぞれの授業について、単元計画の中における協調学習や実施予定の授業についての位置付けを確認した後、それぞれの授業を参加者が体験した。担当教科ではない授業の体験となった参加者が大勢を占めていたこともあり、作成されたワークシートについて他教科だから気付ける難易度や指示内容の改善点について共有した。

②数学科 引野恭也教諭の公開授業

日時：令和7年9月17日（水）14：25～15：15

対象：1年生Zコース29名

科目：数学I

単元：2次方程式と2次不等式

【授業実施の背景】

単元全体を通して、「日本語⇔数式⇔グラフ（図）の変換をすることが大切」と伝え続けてきた。その集大成として、解の配置問題をグラフを用いて考察しながら、求める条件を数式で表現し、なぜ条件が複数必要なのかを題意を満たさないグラフを用いながら自分の言葉で説明できるようにさせるために授業を実施した。

【授業の概要】

「日本語⇔数式⇔グラフ（図）」の変換、グラフの軸、定義域の端の値について考えるエキスパート資料を確認した生徒が1つのグループになり、メインの課題として示された解答例が不十分である理由について考えた。

【授業観察から見えてきたこと】

問題を考える際、グラフを用いて考えることについては継続的に取り組んできたこともあり、多くの生徒が取り組んでいた。一方、そのグラフをどのように数式や日本語で表現するかについては、難しさを感じる生徒も多く見られたので、その力を養うことが次の目標として挙げられた。

### 【授業と事後協議の様子】



### ③国語科 青木穂乃美教諭の公開授業

日時：令和7年9月18日（水） 11：00～11：50

対象：3年生全員62名

科目：古典探究

単元：蜻蛉日記

#### 【授業実施の背景】

普段は3年生全体を進路希望別に3つのコースに分けて授業を展開しており、本文読解をほぼ終えたコースもあれば、ほぼ初見のコースもある。それぞれのコースの進度に合わせたエキスパート課題を担当し、異なるコースの3人が集まることで、多様な角度から本文を分析することで各自の理解度が深まることを目指した。

また、各コースはそれぞれ別の教員が担当しているので、授業担当者全員（国語科全員）で授業案作成段階から生徒の状況に応じて検討を重ね、授業も担当者全員で行った。

#### 【授業の概要】

蜻蛉日記の作者の夫に対する気持ちはどのようなものかを、教科書本文やその前後の内容から考えた。

#### 【授業観察から見てきたこと】

1年次から協調学習の授業に取り組んできたこともあり、普段違うコースで学習している生徒同士であってもグループ協議は円滑に行うこともでき、授業の進行もスムーズであった。また作者の抱える複雑な気持ちを分析し、日常生活と繋げようとしている姿も伺えた。また、普段のコース別の授業では見られないような姿も見取ることができ、生徒の学びの実態についての認識を深めることができた。

### 【授業の様子】



### (3) 主体的・対話的に学ぶ力の育成を目指した数学Ⅰの授業とその検証

#### グランドデザインとの関連：協働性

##### 【対象】

1年生

##### 【実施内容】

$\sin 75^\circ$  の値を知識構成型ジグソー法を用いて解を求める授業を実施した。それぞれの生徒が担当した内容を理解し、グループ内で共有することで解を見つけるために対話を繰り返していた。

##### 【事後協議】

授業者と参観者で、授業中の生徒の様子について検証した。生徒が主体的、対話的に課題解決に取り組む姿が多く見られ、授業後も対話を続けている姿が印象に残ったという意見があった。授業担当者は年度当初からこの取り組みを行っており、継続的な参観者からは対話の質が向上しているという意見もあった。

##### 【授業と協議の様子】



#### (4)教科横断的な授業

##### グランドデザインとの関連：知的好奇心

教科の枠を超えた探究的な学びの実現を目指すことで教科学習と探究学習をさらに深めるために、2学期公開授業旬間より組織的に取り組んだことについて、授業の実施例を紹介する。

##### ①2学期公開授業旬間に実施された授業の例

##### ア)数学Ⅱと情報Ⅰの教科横断的な授業

###### 【対象】

2年生全員

###### 【実施内容】

一辺が20cmの正方形の四隅を切り取り、升を作る時に高さを何cmにすると容積が最も大きくなるかについて考えた。最初に各自が作成した升にアイロンビーズを入れ、その重量から答えを予測した。次に、プログラミングを利用して最大値の算出に取り組み、最後はコンピュータが算出した値が正しいかどうかを三次関数の極大値を算出することで確認した。

身近な課題について、複数の教科の学習内容を活用して解決することに取り組むことができた。

###### 【授業の様子】



##### イ)世界史と英語、音楽の教科横断的な授業

###### 【対象】

3年生世界史探究選択者

###### 【実施内容】

John LennonのHappy Xmasを聴き、繰り返し出てくる歌詞（この曲のメッセージ）や色を書き取り、それらの意味について歴史的背景を考慮しながら生徒は考えを深めていった。そして、John Lennonがどのような思想を持っていたのかについて思考した。その後Imagineを聴き、その歌詞に込められたメッセージについて推測すると同時に、なぜJohn Lennonが暗殺されたのかについて議論をした。

音楽やその歌詞に込められている意味について、時代背景を根拠に思考を深めることができた。

### 【授業の様子】



### ウ) 保健と音楽の教科横断的な授業

#### 【対象】

1年生音楽Ⅰ選択者

#### 【実施内容】

音楽の処方箋を作ることをテーマとした授業で、人の状態に応じて適切な音楽は何かを考えた。その際、保健の学習内容である交感神経と副交感神経についても一度学び、担当教員がそれらを考慮してどのような時にどのような音楽を聴くか例示した。その後、生徒は交感神経と副交感神経を考慮した処方箋を作成した。

音楽を選ぶ際の理由として保健の学習内容を利用し、生徒は科学的根拠のある処方箋を作成していた。

### 【授業の様子】



### エ) 言語文化に情報活用を組み込んだ授業

#### 【対象】

1年生1クラス

#### 【実施内容】

教科書に掲載されている古典作品の新聞作成の授業を行った。最初、教師が作成した新聞の見本を読み、その中にある誤った情報をグループ毎に見つけた。その際、生徒は資料などを参照しながら原典を解釈した。その後、正しい情報を載せた新聞記事をグループ毎に作成した。AIに指示を出して作成した写真を掲載することが条件となっていた。

これらの活動を通して、古典読解力の向上のみならず、新聞への情報の載せ方や、AI への適切な指示の出し方といった情報活用能力の育成を図った。

【教材と授業の様子】



②第2回運営指導委員会での公開授業

【授業内容】

「伊勢物語」において「露」は儂いものであるが、化学的視点で見ると「水」は儂いものとは必ずしも言えないことを化学結合の観点から理解した。その後、「露は儂いか」という問いをグループで考えることを通して、視点によって捉え方が異なることを学習した。

【ワークシートの一部】

<p>「露」は、朝日が昇って気温が上がれば消えてしまいう、「はかなさ」を持ったものでしたよね。</p> <p>← 一時的にしか形を保てない、儂くも美しい存在です。</p> <p>ア 光り輝くもの イ 貴重なもの ウ 力強いもの エ 冷たいもの オ 冷たいもの</p> <p>問十二 傍線部の「露」と答へて消えなましものせしについて、 (一)この歌において、「露」はどういうものとして扱われているか。最も適当なものを選択肢から選び、記号で答えなさい。</p>	<p>メイン課題：「露」は本当に儂いか。</p> <p>化学的視点から迫っていく。。。</p> <p>共有結合と分子結晶の成り立ち</p> <p>○ 分子結晶 → 分子が分子間力からできた結晶 例 水 H<sub>2</sub>O</p> <p>共有結合 分子間力</p> <p>○ 性質 ① 非金属のみからなる ② 柔らかい</p> <p>共有結合の物質は非金属のみから構成され分子と呼ばれる。 分子は、非常に弱い分子間力によってつながり、液体や固体になる。 そこで分子の結晶（固体）である分子結晶の性質は、「やわらかい」と表現される。</p>
<p>メイン課題：「露」は本当に儂いか。</p> <p>化学的視点から迫っていくと。。。</p> <p>課題：以下の共有結合の物質を沸点の高い（分子間力の強い）順に並べなさい。</p> <p>窒素N<sub>2</sub>      二酸化炭素CO<sub>2</sub>      水H<sub>2</sub>O</p> <p>&gt; &gt;</p>	<p>メイン課題：「露」は本当に儂いか。</p> <p>文学と化学の2つの視点から記述し、あなたの考えるメイン課題の結論を記述してください。</p> <p>化学的に。。。</p> <p>文学的に。。。</p> <p>よって「露」は</p>

### ③第3回運営指導委員会での公開授業

#### 【事前検討会について】

授業実施の約2週間前に、校内の教員（ALT 含む）9名に生徒役になってもらい、授業のシミュレーションを行った。その結果から授業案を再度検討した。

#### 【検討の様子】



#### 【授業内容】

A国がB国に対して関税を上げた場合、B国はどのように対応すれば良いかを、数学の相加相乗平均の関係から解決策を導き出す授業を行った。

#### 【授業の様子】

当日は、校内外より25名の参観があった。



### ④英語の概念を深めるための継続的な取り組み

生徒が英語を母語とする人の物事に対する概念を理解することによって、英語を使いやすくなることを目的とした授業を実践した。日本語と英語の違いについて書かれている日本語の文章を拠り所にしながら、グループワークを通して考えを深めていく授業に取り組んだ。なお、教材作成や授業設計に関して東京大学大学院生原田大希氏、知識構成型ジグソー法を用いたグループワークの実践に関して一般社団法人教育環境デザイン研究所(以下 CoREF と記載)に協力していただいた。

1年生の1クラスを対象とし、合計5回の実践に取り組んでいる。以下、その概要を掲載する。

#### 7) have の意味について考える授業実践

##### 【実施日】

令和7年6月18日(水) 1限(9:00~9:50)

##### 【内容】

「have」の意味は日本語の「持っている」より広いが、その意味の共通点と相違点と、原因となる歴史的背景を説明する」ことを課題とし、知識構成型ジグソー法を用いた授業を実践した。3人グループの生徒がそれぞれ以下の資料を学習した後、他のメンバーに共有して課題を考えた。

- A “have”を「持っている」と捉えられるときとそうでないときの使い方
- B 類似する事柄を“have”を用いて表現する場合としない場合の違い
- C 英語の歴史的背景

各グループの考えを全体で共有した後、各自で問いに対する答えを記述した。その結果を分析すると、“have”の意味が「持っている」に比べ広いことを、自分の言葉で表すことができていた。ただ、エキスパートCの文章から読み取れる歴史的背景をどのように have の意味の広さとつなげていくかについては、苦労している生徒も多かった。

#### 1) 英文には主語が必要である理由を考える授業実践

##### 【実施日】

令和7年11月14日(金) 2限(10:00~10:50)

##### 【内容】

「英文には主語が必要だが、日本語の文では必ずしも主語を必要としない理由を考える」ことを課題とし、知識構成型ジグソー法を用いた授業を実践した。最初に全員で解の手掛かりとなる大野晋の文章を読んだ後、3人グループの生徒がそれぞれ以下の資料を学習した。そして、他のメンバーに共有して課題を考えた。

- A 大学入試共通テスト英語筆記の問題文と日本語訳を比較
- B 川端康成「雪国」の原典と英訳の比較
- C 全員で読んだ大野晋の文章の一部に焦点を当て、日本語と英語を比較

各グループの考えを全体で共有した後、各自で問いに対する答えを記述した。その結果を分析すると、日本語は主観的視点で表現する言語であり、英語は客観的視点で表現する言語であることを生徒各自の表現で解答していた。また、日本語の視点、英語の視点を絵でも表現させた。

#### 1) 英語と日本語での時間の捉え方の違いを考える授業実践

##### 【実施日】

令和7年12月24日(水) 2限(10:00~10:50)

##### 【内容】

「英語と日本語では、どのように時間の捉え方が異なるかを考える」ことを課題とし、知識構成型ジグソー法を用いた授業を実践した。最初に全員で解の手掛かりとなる大野晋の文章を読んだ後、3人グループの生徒がそれぞれ以下の資料を学習した。そして、他のメンバーに共有して課題を考えた。

- A 「葉っぱのフレディ」の英文の一部から英語の時制について検討
- B 「羅生門」の原典の一部から日本語の時制について検討
- C 大野晋の別の文章から、日本語と英語の違いを比較

各グループの考えを全体で共有した後、各自で問いに対する答えを記述した。その結果を分析すると、日本語は主観的視点で時間を表現する言語であり、英語は客観的視点で時間を表現する言語であることを生徒各自の表現で解答していた。また、日本語の視点、英語の視点を絵でも表現させた。ア)やイ)で行った実践と関連付けて、概念について深めている解答も見られた。

#### イ) 現在完了形と過去形から日本語と英語の違いを考える授業実践

【実施日】

令和8年2月16日(月) 4限(12:00~12:50)

【内容】

英語コミュニケーションⅠの授業で扱った題材を英語でまとめることを課題としたが、その際に「現在完了形」と「過去形」のどちらを使うべきか考えさせるために、知識構成型ジグソー法の授業を行った。最初に、教科書の内容を各自で振り返りながら、題材に出てくる人物が成し遂げたことを英語で表現した。その後、3つのグループに別れ、それぞれの資料を理解した。

A 教科書の題材を英語で要約した文

B 英語の過去形と日本語の「た」との違い

C 現在完了形の理解

各グループの考えを全体で共有した後、各自で問いに対する答えを記述した。その結果を分析すると、全体として既習事項の要約には取り組んでいた。ただ、時制の概念をどの程度考慮して要約を完成させたかについては個々の差があった。

#### ウ) 英語の概念について考えをまとめる授業実践

【実施日】

令和8年3月実施予定

【内容】

英語の概念について、1年間学んできたことをもとに自分の考えをまとめ、それに基づいて英語表現をする活動を実施する。

【実践報告】

ア)~ウ)の各実践については、CoREFの学譜システムに投稿し、新しい学びプロジェクト参加者と共有した。ア)については、学瞰レコーダーを用いて生徒の対話の様子を映像で記録し、文字起こしをした。この記録を令和7年8月23日(土)に行われたCoREF主催の「第3回本郷学習科学セミナー」に授業実践として報告し、参加者より助言をいただいた。ア)~ウ)については、令和8年1月25日(日)に行われた新しい学びプロジェクト報告会にて実践内容を説明した。特に新しい学びプロジェクト報告会では、実践を繰り返すことによって生徒が過去の授業内容と結びつけながら学びを深めていると指摘していただく一方、最終的にどのように英語表現力に繋げていくのか、どのように英語の力が伸びたかを評価するかについての指摘もあった。これらのことをもとにして、イ)以降の実践に取り組んだ。

【考察】

生徒にとって、今まであまり考えたことのない事柄であったり、やや難しい内容であったため、最初の授業では理解しきれなかった様子の生徒も多かった。ただ、日本語と英語の違いについて繰り返し考えていくことで前回の内容と関連付けなが

ら内容を深める様子うかがえた。

「言語の概念を考える」という PBL を、年間を通して実践することができた。この体験を、2年次に本格化する個人の探究活動に活用してほしいと思う。

## (5) 研修内容の普及を図る主体的な取り組み

### グラウンドデザインとの関連：多様性活用力

島根県教育庁学校教育課の「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業力向上プロジェクト事業」に、研究推進教員として参加している青木穂乃美教諭が、自身が研修した成果を校内に普及させるために、以下のような取り組みを自主的に行った。

#### ①有志による授業検討会

期日：令和8年1月19日（月）15：25～16：15

##### 【内容】

授業に使うワークシートを、6名の参加教員に生徒役として解答してもらうことで、授業者の想定と比べてどのようなことが授業中に起こりそうか予想し、授業案の改善に役立てることとした。

#### ②授業実施

期日：令和8年1月22日（木）～2月4日（水）

対象：1年生各クラス1時間ずつ

科目：言語文化

##### 【内容】

「十八史略」の「完璧」の内容を学習した後、理解を深化させる目的で知識構成型ジグソー法の授業を行った。登場人物である相如が趙に無事に帰ることができた理由を、「十八史略」の原典である「史記」から各自が探し、グループワークを通して解答を作成した。この活動を通して、相如の賢さを具体的に説明させることで、相如の人物像に迫らせた。

青木教諭は普段授業をしているクラスのみならず、他の教員が担当しているクラスにも出前授業を行い協働して授業をすることで、生徒にも教員にも研修成果を共有することができた。

##### 【授業の様子】



#### ③成果

授業実施を通して見えてきた、生徒への効果について青木教諭がまとめたレポートを引用する。（一部改変）

##### a) 「難しさ」を「知的なワクワク」へ転換する姿

事前検討では「難解」と予想された資料であっても、適切な問立てと支援があれば

ば、生徒は「難しいけれど、他者の視点を得ることで理解が進むおもしろさ」を実感していた。担当外クラスでも共通して前述のような傾向が見られた。これにより、教材の難易度が必ずしも思考の壁にはならないことが立証されたと言える。

生徒アンケートより「授業全体の感想」

生徒	記述内容
生徒1	今日の授業で藺相如がどんな人物なのか理解できたので良かったです。自分のパートでわからなかったところを他の人の説明で理解できてスッキリしたし、楽しかったです。A, B, Cのすべてのパートを理解したうえでどんな人物なのかの説明を考えるのが難しく、時間もぎりぎりになったけどしっかり書けたので良かったです。
生徒2	みんなでのグループワークは楽しかった。でも、自分の資料の説明をするときは難しく、全然上手に説明できなくて悔しいと思ったし、みんなに申し訳ないなって思った。今度からは図を描いて説明することをしてみようかなと思った。また、みんなの資料の説明を聞いて、この物語についての謎が少し解けた気がして、とてもスッキリしたし、理解できると面白いなと思った。
生徒3	私は文章を読んで人物の心情などを考えることは得意ではないけど、今回課題を解くときにゆっくりじっくり解くことで普段とは違う視点から発見することが多かった。ジグソー法の楽しさを改めて知れたのでまたやってみたいです。

b) 潜在的な思考や学びに向かう姿勢の可視化

ポスト課題（授業後に取り組む課題）の記述が苦手な生徒も、振り返り等の質的データでは対話を通じた鋭い気づきを言語化できていた。「言語文化」が苦手な生徒も授業に積極的に参加し、理解を深めようと努力していた姿勢を読み取ることが出来た。授業者にとっても、記述の拙さを「思考の欠如」と見なさず内面の変容を掬い取ることで、主体的に学ぶ態度をより妥当に評価できるようになった。

言語文化を苦手とする生徒のアンケートより

生徒	授業全体の感想	国語の授業でジグソーを	理由
生徒4	<p>今回のエキスパート課題とジグソー課題を通して、学び方が大きく変わったと感じました。エキスパート課題では、資料を調べて要点をまとめることが難しく、最初は何を書けばよいか迷いましたが、重要な部分に線を引きながら整理することで理解しやすくなりました。</p> <p>また、ジグソー課題では、自分の担当内容を班の人に説明しましたが、言葉だけでは伝わりにくく、図を使って説明すると理解してもらえたことが印象に残っています。この経験から、相手に伝える工夫の大切さを学びました。今回の学習を、これからの授業にも生かしていきたいです。</p>	ぜひまたやりたい	自分で調べて説明することで理解が深まり、友だちの意見から新しい考え方を知ることができたからで、次はもっと分かりやすく伝えられるように工夫したいと思ったからです。
生徒5	<p>物語を自分の言葉でまとめたりするには、話をよく理解することが大切だと思って、その物語に対しての意欲が増すいい機会だったなと思いました</p>	ぜひまたやりたい	楽しかったから
生徒6	<p>今日の授業では藺相如が趙へ無事に帰ってこれた理由について考えました。教科書には秦王が相如を賢い者と認めて趙に返したと書かれていましたが、今日の授業ではそこを深堀りしました。ジグソー活動は面白い視点に気づけるなと思いました。自分では考えられないようなキーワードなども出てきてすごく面白かったです。肝心の活動の内容ですが、「賢い」という言葉の深堀りをしました。「賢いは賢いでも先のことを読む力がすごかったから」という結論になりました。しっかり文章読解できたので良かったです。</p>	ぜひまたやりたい	大人数での話し合いのほうがたくさん意見聞けるし、話し合いがしやすいかもしれないから。

### 3. 出前授業

#### (1)情報Ⅰにおける出前授業

##### グランドデザインとの関連：情報活用力

情報Ⅰの授業で学習している内容と社会との関連を深めるために、IT 企業の方を講師とした定期的な出前授業を行った。

#### ①第1回

株式会社ユニオンシंक様を講師として招き、IT 業界の仕事内容についての講義および質疑応答をしていただき、生徒の職業観を養った。

##### 【実施日時】

令和7年7月9日（水）

1限	9:00～9:50	2年1組
2限	10:00～10:50	2年2組
3限	11:00～11:50	1年3組
5限	13:25～14:15	1年1組
6限	14:25～15:15	1年2組

##### 【授業内容】

以下の内容について、具体例を挙げながら講義をしていただいた。

ア) 現在ITはあらゆる仕事で使われており、どの業界でも通じるITスキルが必要になっていること

イ) IT 業界は幅広く、コンピュータ部品やネットワークを築く仕事から、ソフトウェア開発、web デザイン、AI などの先端技術を扱う仕事まで様々あること

##### 【授業の様子】

ア) 生徒は適宜メモを取るなど、熱心に聴講する姿が見られた。また、授業後に個別に質問をしている生徒もいた。

イ) 3名の保護者、および4名の産業振興課からの参観があった。



#### ②第2回

株式会社益田工房様を講師として招き、情報Ⅰ「情報デザイン」の内容について、チラシ作りの基本等の講義と演習を行っていただいた。チラシのデザインの仕方のみならず、情報デザインについて考える際に必要な事柄は、他の事柄にも応用できることを教えていただいた。

### 【実施日時】

令和7年8月21日（木）

1限	9:00～9:50	全体講義	1年生全員
2限	10:00～10:50	演習	1年1組
3限	11:00～11:50	演習	1年2組
4限	12:00～12:50	演習	1年3組

### 【授業内容】

#### 7) 全体講義

##### a) 導入（洪社長）

会社概要や本校のホームページ作成について関わっていただいたことなどを説明いただいた後、世界基準で通用するものを作ることが大切であると力説していただいた。

##### b) チラシデザインの基本（井上デザイナー）

デザインをする際の基本的な考え方や、チラシの必要性と役割、チラシ作りの重要ポイントについて説明いただいた後、本校にて作成したチラシ2枚の良い点や改善点についてケーススタディをした。

##### 1) 演習

井上デザイナーによるチラシ作り演習を行った。

本校で10月に行われる鍛錬行事において、地域の方に声援をおくっていただくためのチラシを、グループでGoogleスライドを使って作成した。事前に用意してあった鍛錬行事についての情報や写真を利用した。井上デザイナーより、1限の講義にて説明していただいた内容を再確認しながら、時間内にできる範囲で作成した。その後、井上デザイナーよりフィードバックをいただいた。各グループ毎にチラシに利用するフォントや色が異なり、また作業の進め方にも違いがあり多様な解を見ることができた。

### 【授業の様子】

#### 7) 全体講義



##### 1) 演習



### ③第3回

タイムカプセル株式会社代表取締役社長の相澤謙一郎氏を講師として、情報Ⅰ「プログラミング」について、実社会でどのように使われているかを説明していただきながら、簡単なプログラミング演習を行っていただいた。

#### 【実施日時】

令和7年10月23日（木）

1限	9:00～9:50	1年1組
2限	10:00～10:50	2年2組
3限	11:00～11:50	1年3組
4限	12:00～12:50	1年2組
5限	13:25～14:15	2年1組

#### 【授業内容】

最初、ゲーム制作やアプリ開発をしている会社であることや、パソコンとインターネット環境があれば世界中のどこでもいつでも仕事ができることを具体的な事例を挙げながら説明していただいた。また、最先端のITに自分の好きなことを掛け合わせると、パフォーマンスが上がる仕事ができることを教えていただいた。その後、教科書に載っている乱数や関数のプログラミングを作る演習を行い、その中で引数や戻り値について学んだ。またそれらが実際のアプリでどのように用いられているか教えていただいた。生徒は学習内容と実社会の繋がりや、ITビジネスの世界を学ぶことができた。

#### 【授業の様子】



### ④第4回

タイムカプセル株式会社代表取締役社長の相澤謙一郎氏を講師として、情報Ⅰ「シミュレーション」について、実社会でどのように使われているかを説明していただきながら、簡単なプログラミングを用いた演習を行っていただいた。

#### 【実施日時】

令和7年12月4日（木）

1限	9:00～9:50	1年1組
2限	10:00～10:50	2年2組
3限	11:00～11:50	1年3組
4限	12:00～12:50	1年2組
5限	13:25～14:15	2年1組

### 【授業内容】

シミュレーションの実際（会社の売り上げ予測、地球温暖化、空気抵抗）を教科書の記載内容や実際のデータを通して確認し、それらに基づいて予想することで効率的な対策ができることを教えていただいた。その後、おみくじアプリの作成演習を行い、診断アプリはアイデア次第で大ヒットすることを教えていただいた。最後に、AI を使ったアプリ（数当てゲーム）作成演習を行った。人間の時間は有限だがAI は無限に作業をするので、AI を活用して適切な判断をすることが大切であると教えていただいた。

### 【授業の様子】



### ⑤第5，6回

タイムカプセル株式会社代表取締役社長の相澤謙一郎氏を講師として、情報Ⅰ「ネットワーク」について、どのようなやり取りがオンライン上でされているか教えていただいた。

### ア)第5回

#### 【実施日時】

令和8年2月4日（水）

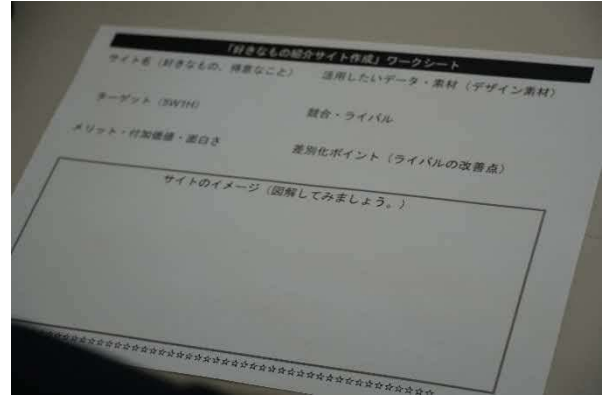
1限	9：00～9：50	1年1組
2限	10：00～10：50	1年2組
3限	11：00～11：50	2年1組
4限	12：00～12：50	2年2組
6限	14：25～15：15	1年3組

#### 【授業内容】

最初にインターネットの歴史についての説明があり、YouTube や Instagram は若者が作ったものを企業が購入したことについて教えていただいた。またアメリカや中国ではAI がすでに普及しているが、日本にもその波がやってきたことを確認した。

インターネットは若者のアイデアで発展してきた経緯があり、「こんなことがインターネット上でできたらいいな」「自分の好きなことがネット上でできたらいいな」というアイデアが大切であることを教えていただいた。その上で、自分の好きなことでのweb ページ作成を次回行うこととし、その設計をした。

### 【授業の様子】



### 1) 第6回

#### 【実施日時】

令和8年2月5日 (木)

1限	9:00~9:50	2年1組
2限	10:00~10:50	2年2組
3限	11:00~11:50	1年2組
4限	12:00~12:50	1年3組
5限	14:25~15:15	1年1組

#### 【授業内容】

世界の3割位のwebページに使われている Wordpress を用いて、前日の授業で行った設計に基づくページを作成した。

### 【授業の様子】



### ⑥第7回

株式会社クリエットの工藤良氏と片山颯斗氏に、情報 I 「データ分析」についての授業を行っていただいた。

#### 【実施日時】

令和8年2月26日 (木)

1限	9:00~9:50	1年1組
2限	10:00~10:50	2年2組
3限	11:00~11:50	1年3組

4限 12:00～12:50 1年2組

5限 14:25～15:15 2年1組

【授業内容】

データの見方やその活用方法についての概要を最初に確認した後、インターネット上にある販売実績のデータをグラフ化されたものを見ながら、どのようなことが言えて、今後の対策として何ができるかについてグループ内で議論をした。

【授業の様子】



【株式会社クリエット様による授業分析】

# 特別講座 「データ分析・活用」 事後報告資料

アンケート結果に基づく成果と改善案の分析

報告者: 株式会社クリエット

日付: 2026年2月27日

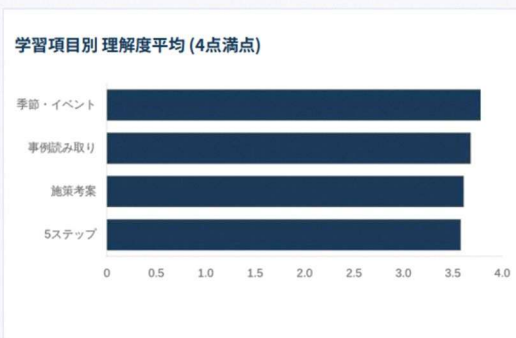
## 全体サマリー：講座の総合評価



本講座は、全体として極めて高い評価を得る結果となりました。身近な事例（Nintendo Switchや江崎グリコの商品）を題材としたことで、データ分析という専門的な内容に対する心理的ハードルを下げ、学生の能動的な参加を引き出すことに成功しました。

指標	平均スコア / 割合	評価
総合満足度	4.58 / 5.0	非常に高い
将来への役立ち感	4.49 / 5.0	非常に高い
難易度 (ちょうどよい)	85.1%	適切

## 定量評価の詳細：満足度と理解度の傾向



各学習項目における理解度は、概ね高い水準にあります。特に「季節・イベントと売上の関係性」や「事例からの特徴読み取り」といった、視覚的にデータを解釈する項目で高い理解が得られました。一方で、理論的なフレームワークである「問題解決の5ステップ」については、実践ワークに比べると理解度がわずかに低い傾向にあります。

学習項目	理解度平均
季節・イベントと売上の関係性	3.78
事例からの特徴読み取り	3.68
次の打ち手（施策）の考案方法	3.61
問題解決の5ステップ	3.58

## 定性評価分析：印象に残ったポイント

### ポッキーとアイスの比較

季節による売上の補完関係や、商品の特性への気づき。

### Switchの事例

クリスマス需要の顕著な現れなど、身近なヒット商品のデータへの驚き。

### グループワーク

他者の視点に触れる楽しさや、協力して施策を考えるプロセスの充実感。

“ 「ポッキーとアイスの売上の違いが面白かった。季節によって売上が違うため、パピコとポッキーで収益が一定になるように工夫していることが印象的だった。」

“ 「Switchはクリスマスプレゼントとして親に頼む人がこんなにいるんだとびっくりした。データ一つで様々なことがわかるのが面白い。」

## 学生の「気づき」と「意識の変化」

講座を通じて、学生のデータに対する意識には明確な変化が見られました。単なる数字の羅列としてではなく、その背後にある「人の行動」や「社会の動き」を読み解くツールとしてデータを捉え始めています。

変化の側面	具体的な内容
視点の広がり	データの形だけでなく、季節やイベント、人の心理と結びつけて多角的に考える姿勢が身についた。
探究への意欲	「2年生の探究活動で活かしたい」「自分の好きなものを調べてみたい」という主体的な学習意欲の向上。
客観的思考	自分の予想と実際のデータの乖離を楽しみ、主観ではなく事実を確認する重要性を認識した。

「データ分析は難しいもの」という先入観が、「身近で面白いもの」へと書き換えられました。

## 講師・運営へのフィードバック

### 講師評価項目（該当人数 N=101）

評価項目	該当人数
説明が分かりやすかった	95
親しみやすかった	73
声が聞き取りやすかった	57
質問しやすかった	9

### 学生からのメッセージ

● アウトプットが多くて楽しかった。50分があったという間でした。

● 明るく進めてくださり、楽しく分かりやすかったです。

● データの背景が理解でき、作業が進めやすかったです。

## 今後の改善に向けた提言 (KPT)

Keep (継続)	Problem (課題)	Try (改善案)
<p><b>身近な題材の活用</b></p> <p>グリコやSwitchなど、学生が日常的に接する素材は、分析の動機付けとして極めて有効でした。</p> <p><b>対話型ワーク</b></p> <p>班での意見交換や付箋を用いたアウトプットが、深い理解と楽しさに直結しています。</p> <p><b>講師の個別フォロー</b></p> <p>机間巡視による適切なアドバイスが、ワークの質を高める重要な要素となりました。</p>	<p><b>50分という時間の制約</b></p> <p>「あっという間だった」という声は、より深く考えた学生には時間が不足していた可能性を示唆します。</p> <p><b>理論の定着度</b></p> <p>5ステップなどのフレームワークの理解が、事例理解に比べるとやや低い傾向にあります。</p>	<p><b>時間の最適化</b></p> <p>導入の理論説明をさらに凝縮し、ワーク時間を拡大。または2コマ連続での実施を検討するも可能です。</p> <p><b>参照ツールの改善</b></p> <p>5ステップをワーク中に常に参照できるような、視覚的なワークシートの導入を試みます。</p> <p><b>フォローアップ提供</b></p> <p>自発的な分析を促すため、公開データの探し方ガイドなどを配布し、学習の継続を支援します。</p>

## 結び：今後の展望

本講座は、データ分析を「自分事」として捉えさせることに成功し、学生の知的好奇心を大きく刺激しました。この成果を一時的なものにせず、学校生活における探究活動や、将来のキャリア形成に繋げていくことが重要です。

### 今後の学習への接続に向けた提言

2年生での探究活動において、本講座で学んだ「5ステップ」や「比較分析」を実践する機会の創出。

より高度な分析手法（相関分析や予測モデルの基礎など）を扱うステップアップ講座の検討。  
実社会の課題解決に直結する、企業や地域との連携ワークショップへの発展。

## (2) 産業社会と人間での出前授業

### グランドデザインとの関連：情報活用力

データ活用の一環として、SMBCコンシューマーファイナンス株式会社様による産業社会と人間の出前授業を行った。投資について学ぶことを通して、金融商品の額面と社会背景の結びつきについて学習した。

#### 【実施日時】

令和7年10月8日（水） 13:25～15:15

#### 【対象】

2年生総合コース

#### 【講師】

SMBCコンシューマーファイナンス株式会社 大崎美苗氏（オンライン）

#### 【授業内容】

物価上昇に伴い、お金の価値が変わっていくため資産運用することが必要になってくることを学んだ後、カードゲームを通して資産運用の疑似体験をした。その際、インフレや円安などがどのようにして起こるか、またそれらが金融商品にどのように影響するかについて学ぶことを通して、数字とその背景について理解を深めることができた。

#### 【授業の様子】



### (3)英語での出前授業

#### グランドデザインとの関連：知的好奇心

本校のグランドデザインに掲げてある「やってみたいをやってみる 自分らしく誰かのために」の「やってみる」ことを促すと同時に、英語等の学習意欲を高めるために、外部講師に授業を行っていただいた。世界53カ国を訪れ、現在は学生や教員等の留学支援等を行う会社経営者を講師として招いた。

#### 【実施日時】

令和7年11月18日(水)

10:00～12:50 2年生  
13:25～15:15 1年生  
16:20～17:00 希望者との座談会

#### 【対象】

1、2年生全員

#### 【講師】

株式会社 Stapia 代表取締役 平岡慎也氏

#### 【授業内容】

講師自身の海外に行くまでの努力や、複数の国で教育実習をした経験等について教えていただいた後、生徒自身が海外に行くのであればどこに行くのかについて具体的な計画を立案する演習を行った。

#### 【生徒の感想】

ア)今回は海外への関心が高まるような講演をしてくださりありがとうございました。実際、私はもともと海外への関心がありましたが、講演を通して観光だけでなく、学ぶために行ってみたいと思うようになりました。また、プレゼンテーションの練習を400回もされるほど、努力家な平岡さんに感心しました。私も平岡さんのように努力して前進し、一味違う自分を見つけていきたいと感じました。

イ)今回は講演をしていただきありがとうございました。お話を聞いて、何事にも手を抜かずに取り組んでこられていたのだという印象を持ちました。始まりが「宿題」だったと聞いて身近なところにも興味や関心をひきつけるようなものはあって、それが大きく自分の人生を変える可能性があると思ったらとりあえずやってみることってすごく大事ななと気付かされました。まだ海外に行ったことはないんですが、行ったときは少しでも話せるように自分から行動を起こしていけるようにしたいと思います。

ウ)気になったことや好きなことがあってもなかなか行動にうつさず結局忘れていたみたいなことが多々あるので今回のお話を聞いて私も気になったらすぐ行動に移し、やってみたいという気持ちを大切にしていきたいなと思いました。すごくためになったし面白かったです。ありがとうございました。

【授業の様子】



## 4. 教員向け研修の実施

### (1) 探究学習

本校で長年コーディネーターとして生徒に伴走支援しておられる山本竜也氏を講師として招き、「探究学習と進路支援との接続、つなげ方」をテーマとして行った。県内の各公立高校にも案内したところ、校外より対面1名、オンライン8名の参加があった。

#### 【研修の概要】

日時：令和7年5月13日（火）14：00～15：30

会場：津和野高等学校 Amane（ハイブリッド）

#### 【内容】

探究学習を活用して進路実現をした津和野高校卒業生の事例についての説明の後、探究の伴走者として大切な心構えについての解説があった。その後、未完成の志望理由書をどのように修正するかや伴走についての協議を、小グループにて行った。

#### 【参加者の感想】

①教員（私）は、つつい知識を与えがちであったり、自分の意見を全面に出してしまうように思います。生徒の考えが出てくるまで待つことや、考えを引き出せるよう投げかけることなど、自分の職務にも生かしていきたいと思いました。

②これまでの伴走の仕方や実績をお聞きして、やまたつさんの生徒の力を引き出したり、具体化して言語化して発信する力をつけさせたり、生徒が力を十分に発揮するようもっていくための伴走の仕方が本当に素晴らしいな、、、と改めて感じました。

#### 【講座の様子】



## (2) 学習評価

本校普通科改革支援事業運営指導委員会委員長しておられる飯窪真也氏を講師として招き、「授業に活かす学習評価～観点別評価について考える～」をテーマとして行った。県内の各公立高校にも案内したところ、校外より対面1名、オンライン5名の参加があった。

### 【研修の概要】

日時：令和7年6月20日（金）15：40～16：40

会場：津和野高等学校 Amane（ハイブリッド）

### 【内容】

「新指導要領に向けた有識者検討会の論点整理」を参照しながら、生徒の資質能力を適切に評価するためにはどのようにすると良いかについての講義の後、グランドデザインに掲げる資質能力を育成するための、各教科でのルーブリック作成演習を行った。校外参加者も本校教員の協議に参加した。

### 【参加者の感想】

- ①評価を気にするあまり、評価のために授業に意識がもっていかれていたことに気が付いた。生徒が身に付けてほしい力を獲得するためにはどのような授業をすればよいかを考え、授業中の生徒の姿を見とるまでは意識していた。しかし、その見取りが適切かどうかまでは考えていなかった。授業改善は、評価も含めて考えていかなければならない点を大事にしていきたい。
- ②評価について、生徒に身につけさせたい資質能力という柱をしっかりと据えながら、生徒に実態に合わせてその評価を参考に、少しずつ修正していくという点がとても参考になった。
- ③今日のような話を日頃の教科会でできるといいなと思った。他校の先生ともお話ができてよかった。（もう少ししゃべってもらえばよかった。）
- ④津和野高校の先生方に混ぜていただき、有意義な時間を過ごすことができました。和気あいあいと何でも話せる雰囲気があって、とてもよい経験でした。ありがとうございました。

### 【参加者からの質問】

- ①評価を共有して設定する際に、ゴールイメージと1年次・2年次の姿を想像することという話題がありましたが、例えば1年次で見方・考え方を使用する練習を行って、2年次ではどの見方・考え方を選択する、といったように、1年次で優先すべき、重要性の高いものがあれば、参考までに教えていただきたいです。
- ②座学の授業だけでなく、総合実習や課題研究（総探）学びに関しても評価の基準をどこに置くとよいか質問してみたいと思っています。

### 【上記質問に対する講師の回答】

- ①抽象的、一般的に1年次で優先すべきはこれ、探究で優先すべきはこれという正解があるわけではない。（もちろん具体的な学習内容や生徒実態が分かれば、ある程度これを優先できるとよいというアイデアはあり得る）
- ②まずは先生方が（卒業時に身につけさせたい資質・能力も意識しながら生徒を観察したときに）普段の授業や探究の中で特に生徒の課題だと思われるところはどこか、から考え始められるとよい。
- ③また、「1年次で見方・考え方を使用する練習を行って、2年次ではどの見方・考え方を選択する」のように、先生方の「つもり」としてカリキュラムを考えておくことは大事だが、同時に1年次を通じて本当に生徒が見方・考え方を働かせられる

ようになっているかをしっかり確かめないまま、「2年次になったので今度は自分で働かせる見方・考え方を選んでみましょう」としても、絵にかいた餅（＝形骸化した活動）に終わってしまうことに注意しなければならない。（形成的評価の考え方）

その際、「普段の授業や探究の中で特に生徒の課題だと思われるところはどこか」と言われても、普段どういう授業をやっているか、どんな観点で生徒を見ているかによって、見いだせる課題は違います。

したがって、グランドデザインを意識しつつまずは少しでも授業を変えてみる、それを通じて見えてくる生徒の課題（や次の具体的な目標）も変わってくる、それでまた授業（や働きかけ）を変えてみる、ということの繰り返し的大事だということになります（これがカリマネの核ではないかと思えます）。

### (3) データ活用

#### 【研修の概要】

日時：令和7年8月8日（金） 13：30～15：30

会場：HAN-KOH2階

講師：森永壽氏（島根県統計調査課）

#### 【内容】

島根県の人口データを例として、統計についての概要の説明やデータの分析方法について講義していただいた。後半は演習を通して実際のデータを扱いながら、数値を目的に応じて分析することで課題発見や問題解決に繋がることを実感した。生徒にデータ分析を取り組ませるためにも、周囲の大人がまず実践していくことの大切さに気付くことのできる研修だった。

#### 【研修の様子】



#### (4) ICT 活用

##### ①第1回

本校で利用しているアプリのエディションがアップグレードされて使えるようになった機能を中心に、ハンズオンの校内研修を行った。

##### 【研修の概要】

日時：令和7年7月29日（火）13：30～14：00

会場：津和野高等学校 Amane

講師：舟木亮介教諭（校内 ICT 活用推進リーダー）

##### 【内容】

以下の機能について研修した。

ア) クラスの生徒に課題等を配信するアプリ

課題配信の新機能

音読支援

よく使う内容のリンクの埋め込み

イ) 動画作成アプリ

ウ) 生成 AI によりファイルの要約等ができるアプリ

##### ②第2回

新たに導入されたアプリを用いた教材作成などについて、ハンズオンの研修を行った。

##### 【研修の概要】

日時：令和7年12月19日（金）16：30～17：00

会場：津和野高等学校会議室

講師：舟木亮介教諭（校内 ICT 活用推進リーダー）

##### 【内容】

新たに導入されたアプリの以下の機能について研修した。

ア) 動画作成

イ) スライド作成

ウ) 教材作成

##### ③第3回

生成 AI を使ったアプリ作成について、ハンズオンの校内研修を行った。

##### 【研修の概要】

日時：令和8年2月19日（木）14：00～14：30

会場：津和野高等学校 Amane

講師：舟木亮介教諭（校内 ICT 活用推進リーダー）

##### 【内容】

生成 AI を使ってアプリを作成し Web ページを用いて生徒と共有する方法を、実際にアプリを作成しながら行った。

【研修の様子】



#### iv 地域と連携した取組

##### 1. 地域と連携した総合的な探究の時間

###### (1) 全体概要

本校では、総合的な探究の時間を「T-PLAN」という名前で一貫したプログラムとして設計および運営している。1年生は生徒が興味/関心に出会うための「さがす」時間、2年生は生徒が興味/関心を深めるための「やってみる」時間、3年生は生徒の興味/関心から次のアクションへと「つなぐ」時間となっている。

特に、活動のきっかけをさがす期間である1年生と、活動のために時間を費やす2年生の授業では、地域との連携も欠かせない要素となっている。令和6年度は、1年生の授業の「ブリコラージュゼミ」という選択制体験型講座に、例年と同じように地域の方々に講師となっただき、多種多様な講座を展開した。また、「トークフォークダンス」では、1年生と同数の地域の方々にご来校いただき、生徒との対話を通してお互いに気づきのある時間となった。2年生の授業では「ツコウセッション」と題し、令和5年度までと同様に個人でプロジェクトに取り組む選択肢に加え、町内の公民館を拠点とし、チームになって活動に取り組む選択肢を設ける新たな試みに挑戦した。

本年度は、過年度の基本方針をもとに取り組み内容をさらに発展させた。

(2)総合的な探究の時間の学習内容（学年別）

①1年生：地域との出会いや「やってみたい」を形にすることを通じた自己発見  
第1回

日時：令和7年4月23日（水）12:00～12:50

場所：体育館

【内容】

ア) プチトークフォークダンス

イ) 「T-PLAN」及び1年生の授業計画についての説明

ウ) 諸連絡

【授業の様子】



第2回

日時：令和7年5月9日（金）12:00～12:50、13:25～15:15

場所：体育館、津和野町殿町及び本町周辺

【内容】

ア) 「Feel °C Walk」の目的やルート等についての説明

イ) 「Feel °C Walk」の実施

ウ) 振り返り

【授業の様子】



第3回

日時：令和7年5月23日（金）11:45～12:30

場所：視聴覚教室

## 【内容】

- ア)「ブリコラージュゼミ」の目的や実施概要等についての説明
- イ)「ブリコラージュゼミ」の講座紹介
- ウ)講座希望調査フォームへの入力

## 第4回

日時：令和7年6月10日（火）13:25～16:15

場所：各HR、各講座の体験場所（町内）

## 【内容】

「ブリコラージュゼミ」12講座の実施

- ア)森林・林業・木材産業学習講座  
講師：西部農林水産振興センター益田事務所及び（有）石州造林職員の皆様
- イ)“なんとなく”をカタチにする ～自分って、どんな人？を見える化してみよう～  
講師：佐々木 桃子様
- ウ)石州和紙を染めてうちわをつくろう  
講師：俵 志保様（俵種苗店 SHIKINOKA）
- エ)たまごがひとつあったなら  
講師：國方 あや様（Some more）
- オ)壁を登る ～スポーツクライミングにチャレンジ！～  
講師：大垣 隆様 / 渡邊 彩美様（津和野町教育委員会）
- カ)世界につながるモルックを楽しく体験してみよう！  
講師：萩野 慈隆様（西光寺）
- キ)知ったら沼！おもしろコーヒー講座  
講師：今井 駿祐様（Salon Horn）
- ク)津和野の町はなぜできた？その秘密を探しに津和野城跡を登ろう！  
講師：島田 祥智様（津和野町観光協会）
- ケ)和菓子作り体験：源氏巻きと練り切りを作ろう！  
講師：原田 喜夫様（峰月堂）
- コ)陶芸体験：手作りのマグカップを作ろう！  
講師：中尾 厚子様（クレストホーフ津和野）
- サ)日本の常識＝世界の非常識～SDGsに見る世界の中の日本～  
講師：上潟口 琴代様（滝元枕瀬公民館 館長）
- シ)HTMLでアプリをつくろう ～毎日をもっと便利に～  
講師：中川 啓様（CoderDojo 津和野）

## 【授業の様子】



## 第5回

日時：令和7年6月11日（水）13:25～14:15

場所：視聴覚教室

### 【内容】

- ア) 「ブリコラージュゼミ」の目的の再確認
- イ) 「ブリコラージュゼミ」の振り返り
  - ワークシートの項目1～4に記入（10分）
  - 6人一組で、お互いの振り返りを共有（10分）
  - フォームに振り返りを入力（15分）
- ウ) 第2回ブリコラージュゼミの講座紹介
- エ) 講座希望調査フォームへの入力

## 第6回

日時：令和7年7月15日（火）13:25～16:15

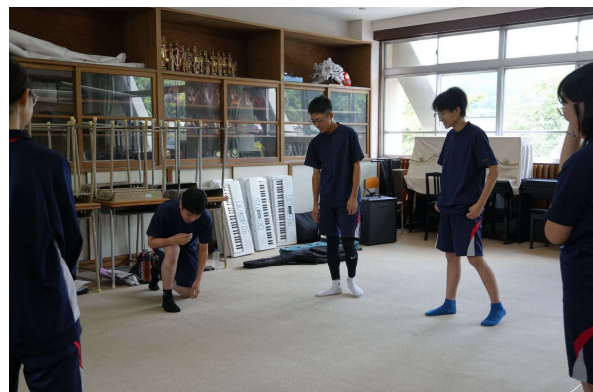
場所：各HR、各講座の体験場所（阿東町）

### 【内容】

3年生による「ブリコラージュゼミ」12講座の実施

- ア) 持続可能な農場の形を知ろう！
- イ) モルック体験
- ウ) 廃校になった小学校、阿東文庫を体験しよう！
- エ) 一緒に津和野の魅力を体験しよう！
- オ) 自分磨きの第一歩 ～美容について知ろう～
- カ) Let's enjoy with dogs!!
- キ) ぷちっと灯籠流し！ ～オリジナル灯籠を作って実際に流そう！～
- ク) 津和野歴3年目の先輩たちによる！津和野の人・場所巡りサイクリングツアー
- ケ) 高校生が考える津和野のミライ
- コ) フェアトレードと栄養
- カ) 見ているだけでもOK！演劇に触れてみよう！
- シ) ふわり花工房

### 【授業の様子】



## 第7回

日時：令和7年7月17日（木）9:00～10:50

場所：視聴覚教室

### 【内容】

- ア) 「ブリコラージュゼミ」の目的の再確認
- イ) 「ブリコラージュゼミ」の振り返り
  - ワークシートの項目1～4に記入（10分）
  - 6人一組で、お互いの振り返りを共有（10分）
- ウ) 第3回ブリコラージュゼミに向けて、大まかな構成と夏休み課題の説明
- エ) 教員もしくはCNと振り返りを兼ねた面談／フォームに振り返りを入力

## 第8回

日時：令和7年9月10日（水）12:00～12:50

場所：視聴覚教室

### 【内容】

- ア) これまでの活動の振り返りと「哲学対話」についての説明
- イ) ツコウのルーブリックで3つの能力の現状を把握する
- ウ) 上記3つの現状が「哲学対話」でレベルアップするには、何ができそうか？
- エ) 哲学対話の問いを考えて書く
  - ラウンド1はテーマ自由
  - ラウンド2はブリコラージュゼミ設計につながるもの（2択）

## 第9回

日時：令和7年9月16日（火）13:25～16:15

場所：各HR

### 【内容】

#### 哲学対話の実施

#### ア) 哲学対話とは

- ・ 「正解」が無い問いを考える時間。
- ・ 他者の話の聴き合いを大事にする。
- ・ 「結論」よりも、「モヤモヤ」を残すことが学びにつながる（自分の内面の変容へ）。

#### イ) 哲学対話の目標

- ・ 自ら問いを立て、対話を通じて考えを深める／広げる。
- ・ じっくり考える経験を、ブリコラージュゼミ③の設計・スタート時の思考につなげる。

### 【授業の様子】



#### 第10回

日時：令和7年9月17日（水）12:00～12:50

場所：視聴覚教室

##### 【内容】

- ア)「哲学対話」での、自分たちの歩みを内省と共有によりふりかえる
- イ)ブリコラージュゼミ③に向けた流れを理解する

#### 第11回

日時：令和7年10月21日（火）11:00～11:50

場所：1年HR

##### 【内容】

12月のブリコラージュゼミに向けた準備1回目（全3回）

- ア)ブリコラージュゼミまでのスケジュールの共有（教員より）
- イ)班ごとのチームビルディング
- ウ)講座の方向性を決める（班ごとで話し合い）
  - 講座の目的、講座名、実施場所決め
  - ※時間が余れば業務分担（物品の予算立て、協力者への依頼など）

#### 第12回

日時：令和7年11月12日（水）13:25～14:15

場所：1年HR

##### 【内容】

12月のブリコラージュゼミに向けた準備2回目（全3回）

- ア)今回の授業で行うことの説明（教員より）
- イ)班ごとの話し合い
  - ・講座の内容を詰める
  - ・講座の流れ、講座紹介文、受講生の最少人数、服装、持ち物を決定
  - ・12/3（水）の準備3回目（予行練習）の計画を立てた後、ワークシートに上記の決定事項を記入し、提出

#### 第13回

日時：令和7年12月3日（水）14:25～15:15

場所：1年HR

##### 【内容】

12月のブリコラージュゼミに向けた準備3回目（全3回）

- ア)諸連絡
  - ・受講人数をふまえ、受講内容や予算を確認する。
  - ・借用や購入等、事前に担当教員の許可を取る。
- イ)各教室でのリハーサル

#### 第14回

日時：令和7年12月10日（水）11:00～12:50、13:25～16:15

場所：各HR

##### 【内容】

1年生同士による「ブリコラージュゼミ」14講座の実施

- ア) 自分だけの手帳をつくってみよう
- イ) 冬を感じられるスノードームを作ろう！
- ウ) 美しい人の作り方
- エ) 巨大な泡を作ろう！象の歯磨き粉から学ぶ
- オ) 宇宙で投網デビュー
- カ) 競技かるたを楽しもう！
- キ) スポーツの楽しさを知ろう！
- ク) 楽器の楽しさを知ろう！
- ケ) スポーツ科学ゼミ
- コ) Shall we cook? ～学んで深める、まめ茶を使って～
- サ) 身のまわりにある植物を使って、オリジナルのキーホルダーを作ろう！
- シ) 対話を通して自分の未来を考えよう
- ス) 使わなくなったものを使おう！
- セ) 源氏巻から派生する津和野の魅力

##### 【授業の様子】



#### 第15回

日時：令和7年12月11日（木）11:00～12:50

場所：1年HR

##### 【内容】

ブリコラージュゼミ振り返りワークシートへの記入

#### 第16回

日時：令和7年12月17日（水）13:25～14:15

場所：1年HR

##### 【内容】

- ア) 冬休み課題の説明
- イ) 学期振り返りワークシートの記入
- ウ) ペアワーク

第17回

日時：令和8年2月5日（木）14:25～16:15

場所：各HR、HAN-K0H

【内容】

2年生の成果発表を聴講

第18回

日時：令和8年3月13日（金）13:25～15:15（予定）

【内容】

次年度の探究活動計画の作成

第19回

日時：令和8年3月18日（水）13:25～15:15（予定）

【内容】

各自の探究活動計画について、教員からのフィードバック

## ②2年生：個人活動/グループ活動に分かれた探究活動

※2年生は、総合コースと自然科学コースは週1単位、探究コースは週2単位の総合的な探究の時間がある。そのため、全コース合同実施1時間（全コースと表記）、探究コース単独実施1時間（探究コースのみと表記）で実施している。

### 第1回

日時：令和7年5月16日（金）12:00～12:50（全コース）

場所：視聴覚教室

#### 【内容】

ア)R7の2年総探の目標共有

イ)総探サポーター紹介

ウ)1年間のスケジュール共有

エ)活動や場の方向性について共有

オ)活動希望調査フォームへの記入

### 第2回

日時：令和7年5月27日（火）14:55～15:40（全コース）

場所：視聴覚教室

#### 【内容】

ア)活動の場とサポーターの発表

イ)グループごとに活動

自己紹介

何がしたいか、なぜその活動の場を選んだかを共有する

今後の計画を考える

#### 【授業の様子】



### 第3回

日時：令和7年6月9日（月）12:00～12:50、13:25～14:15（全コース）

場所：視聴覚教室、2年HR

#### 【内容】

ア)自分の探究に、想いや関心、課題感をより深めて取り入れるためのワーク（山本竜也CNによる設計）

イ)活動ごとに分かれて自己紹介や現段階で考えていることなどの共有

#### 第4回

日時：令和7年6月18日（水）11:00～15:15（探究コースのみ）

場所：2年HR、cafe&hostel TMC、日原地区など

##### 【内容】

各自のテーマ毎に、探究活動を開始

##### 【授業の様子】



#### 第5回

日時：令和7年6月19日（木）12:00～12:50（全コース）

場所：23 教室

##### 【内容】

第4回で取り組んだ活動をテーマ毎に振り返り

##### 【授業の様子】



#### 第6回

日時：令和7年7月2日（水）13:25～15:15（全コース）

場所：各HR、cafe&hostel TMC

##### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

### 第7回

日時：令和7年7月9日（水）13:25～15:15（全コース）

場所：各HR、日原地区

#### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

### 第8回

日時：令和7年7月15日（火）12:00～16:15（探究コースのみ）

場所：各HR

#### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

### 第9回

日時：令和7年8月27日（水）11:00～12:50（全コース）

場所：各HR、cafe&hostel TMC

#### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

### 第10回

日時：令和7年9月9日（火）14:25～16:15（全コース）

場所：視聴覚教室

#### 【内容】

島根県立大学地域政策学部地域政策学科地域づくりコースの講師である西嶋一泰氏による講演とワークショップ

### 第11回

日時：令和7年9月16日（火）12:00～16:15（全コース）

場所：各HR、日原地区、cafe&hostel TMC

#### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

#### 【授業の様子】



## 第12回

日時：令和7年9月17日（水）10:00～10:50（探究コースのみ）

場所：各HR

### 【内容】

第11回で取り組んだ活動をテーマ毎に振り返ったのち、活動を継続

## 第13回

日時：令和7年10月8日（水）13:25～15:15（探究コースのみ）

場所：2年HR

### 【内容】

中間発表に向けたスライドの作成

## 第14回

日時：令和7年10月14日（火）10:00～12:50（全コース）

場所：視聴覚教室、各HR

### 【内容】

半年間の活動について中間発表。

7) 視聴覚室に集合。中間発表の場所や方法を説明する。

・7～8名で発表。（形式的な発表の体験）1人の発表時間は10分以内。

・10分の中に質疑応答や感想、提案等の時間も含む。

・生徒：発表者以外は質問や感想を言う。

・教員：評価をスプレッドシートに入力する。進行は各部屋の教員が行う。

・CN：コメントや斬新な視点でのご意見を伝える。

1) 班または個人でスライド最終確認を行う。

※班でスライドを作成している場合は共有またはコピーする。

2) 2限終了直後、各教室へ移動する。

3) 発表の順番決めとスクリーンへの投影方法を確認する。

4) 1人10分ずつで進行（50分経過したら10分休憩時間をとる）。

5) 全員の発表が終わったところで、全体で振り返りを行った後、ふりかえりシート（スプレッドシート）入力

6) 時間が余れば、各自でスライドの修正や今後の活動を計画

## 第15回

日時：令和7年10月30日（木）8:40～16:20（探究コースのみ。移動時間を含む）

場所：島根県立大学 浜田キャンパス

### 【内容】

高大連携事業の一環で島根県立大学を訪問した。

8:40 太鼓谷稲荷神社駐車場（学校横）集合

8:50 出発

10:10 島根県立大学到着

10:30～11:30 「総合的な探究の時間」中間発表

2班に分かれて、スライドを使い1人ずつ5分程度で発表を行ったのち、大学の先生と大学生の方から講評、助言をいただく。

11:40～12:25 昼食（大学カフェテリアにて）  
 12:30～13:00 大学概要説明  
 13:10～14:30 ゼミ見学  
 14:50 島根県立大学出発  
 16:20 太鼓谷稲荷神社駐車場着、解散

【授業の様子】



第16回

日時：令和7年10月31日（金）14:25～15:15（探究コースのみ）

場所：2年HR

【内容】

島根県立大学訪問の振り返り

第17回

日時：令和7年11月5日（水）13:25～15:15（全コース）

場所：各HR、日原地区、cafe&hostel TMC

【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

第18回

日時：令和7年11月11日（火）12:00～16:15（探究コースのみ）

場所：各HR、cafe&hostel TMC

【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

【授業の様子】



#### 第19回

日時：令和7年11月12日（水）13:25～14:15（探究コースのみ）

場所：各HR

##### 【内容】

第18回で取り組んだ活動をテーマ毎に振り返ったのち、活動を継続

#### 第20回

日時：令和7年12月3日（水）13:25～15:15（全コースでの活動最終日）

場所：各HR、cafe&hostel TMC

##### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

#### 第21回

日時：令和7年12月9日（火）12:00～16:15（探究コースのみ）

場所：各HR、cafe&hostel TMC

##### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

#### 第22回

日時：令和7年12月10日（水）14:25～15:15（探究コースのみ）

場所：各HR

##### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

#### 第23回

日時：令和7年12月17日（水）13:25～15:15（探究コースのみの活動最終日）

場所：各HR、日原地区

##### 【内容】

テーマ毎に活動場所に分かれ、探究活動を進める

#### 第24回

日時：令和8年1月9日（金）13:25～15:15（全コース）

場所：各HR

##### 【内容】

ア) 活動発表会についての説明

イ) 発表スライドに自己の変容を付け加える

ウ) 担当教員もしくはコーディネーターと10分間の相談や練習

#### 第25回

日時：令和8年1月14日（水）11:00～12:50（全コース）

場所：各HR

##### 【内容】

ア) 第24回での活動をもとに、スライド全体の補正

イ) 担当教員もしくはコーディネーターの前での発表練習

## 第26回

日時：1月23日（金）13:25～15:15（全コース）

場所：各HR

### 【内容】

- ア)発表班ごとに、実際の会場で発表順でのリハーサル
- イ)担当教員もしくはコーディネーターと10分間の相談や練習

## 第27回

日時：令和8年2月5日（木）10:00～16:15（探究コース）

13:25～16:15（全コース）

場所：各HR、HAN-KOH

### 【内容】

各4～5人の10グループに分かれ、聴衆の前で自分たちの探究活動の成果を発表し、質問に答えた。聴衆として、本校1年生の他、日原中学校や津和野中学校の2年生、地域の方々に来ていただいた。また、島根県立大学の先生、県内外の探究活動有識者からコメントをいただいた。

### 【発表会の様子】



【発表内容一覧】

班	発表順	発表テーマ	会場
1	1 2 3 4	たのしみちをつくろう 日原で子どもたちが学年関係なく関われる場を作る 情報発信を通してTMCの魅力を若い世代に伝える 津和野の植物から和紙を作る	HAN-KOH 1F
2	1 2 3 4	若い世代にとってTMCをより魅力的な場所にする 負けない野球 情報発信を通してTMCの魅力を若い世代に伝える 寮生活をより良いものに	2の2
3	1 2 3 4	寮生活をより良いものに 負けない野球 TMCを盛り上げよう 日原で子どもたちが学年関係なく関われる場を作る	2の1
4	1 2 3 4	チラシづくり 乳幼児の発達とおもちゃの関係 自分たちで考えてTMCやお客さんに喜んでもらえるような活動をする 野球のための体作り	23教室
5	1 2 3 4	寮生活をより良いものに 自分たちで考えてTMCやお客さんに喜んでもらえるような活動をする TMCを盛り上げよう 野球のための体作り	14教室
6	1 2 3 4 5	歴史を楽しみ、研究する 若い世代にとってTMCをより魅力的な場所にする TMCを盛り上げよう 日原で子どもたちが学年関係なく関われる場を作る 川と海の生態系、その違いを探る旅	HAN-KOH 2F
7	1 2 3 4 5	外来生物と絶滅危惧種 エシカル行動を楽しもう 自分たちで考えてTMCやお客さんに喜んでもらえるような活動をする 活動絵本 津和野町と野球	34教室
8	1 2 3 4	津和野の野球人口を増やす～私にできること～ 少しでも進路や高校進学について悩む人を少なくする 寮生活をより良いものに 自己の変容	会議室
9	1 2 3 4	TMCin 津和野 音楽を通した居場所づくり 津和野の植物から和紙を作る 手話	地歴
10	1 2 3 4 5	野球のための体作り どうしたら若い人たちがTMCに来てくれるか 津和野の鯉はなぜ大きいのか 新しいカードゲームを通してみんなを笑顔に 若い世代にとってTMCをより魅力的な場所にする	視聴覚

第28回

日時：令和8年2月12日（木）13:25～14:15（全コース）

場所：各HR

【内容】

成果発表会や1年間の探究活動について各自で振り返った。

### ③3年生：探究活動の成果を進路につなげる

※3年生は、総合コースと自然科学コースは週1単位、探究コースは週2単位の総合的な探究の時間がある。そのため、全コース合同実施1時間（全コースと表記）、探究コース単独実施1時間（探究コースのみと表記）で実施している。

#### 第1回

日時：令和7年4月23日（水）12:00～12:50（全コース）

場所：視聴覚教室

##### 【内容】

- ア) 「つなぐ」とは
- イ) 3年生の授業計画についての説明
- ウ) メインとなる活動紹介
- エ) 「自分の強み」とは

##### 【授業の様子】



#### 第2回

日時：令和7年4月28日（月）12:00～12:50、13:25～15:15（全コース）

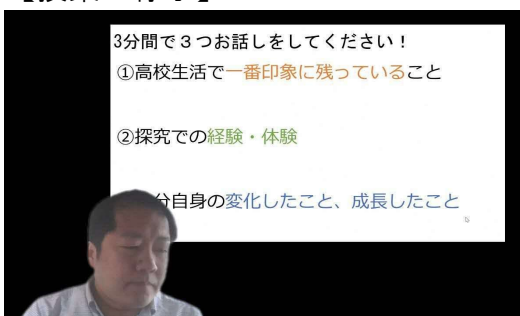
場所：各HR

##### 【内容】

特任コーディネーターの山本竜也氏による講座

- ア) 導入、アイスブレイク
- イ) 振り返りの大切さ及びマインドマップの説明
- ウ) マインドマップのお題（高校3年間）の説明
- エ) マインドマップを実際に書いてみる
- オ) 振り返ったことを言葉にして説明することの重要性の説明
- カ) マインドマップをペアで説明する

##### 【授業の様子】



### 第3回

日時：令和7年5月22日（木）10:50～12:30（全コース）

場所：視聴覚教室

#### 【内容】

自分史の作成

- ア)なぜ私たちは自分史を作るのかを考える
- イ)自分史作成のための作業
- ウ)生徒同士で共有し、自分の考えを深める

### 第4回

日時：令和7年5月1日（木）11:00～12:50（探究コースのみ）

場所：各HR

#### 【内容】

ブリコラージュゼミ実施に向けた企画と準備

- ア)ブリコラ設計の流れを説明（全体計画の共有）
- イ)ブリコラージュを設計するにあたり必要なこと（ガイダンス）
- ウ)3つの班に分かれ、各班で4つの講座を作る
- エ)企画書づくりについて（ガイダンス：大学生の例を示しながら）
- オ)各講座に分かれて企画書づくり

### 第5回

日時：令和7年5月20日（火）14:00～15:50（探究コースのみ）

場所：各HR

#### 【内容】

ブリコラージュゼミ実施に向けた企画と準備

- ア)伴走の先生と企画について相談する、場所を決める、今後の計画を立てる
- イ)本番の日時からさかのぼって、何をいつまでに、どのように準備していくのか計画する

### 第6回

日時：令和7年5月26日（月）13:05～14:45（探究コースのみ）

場所：各HR

#### 【内容】

6月11日に1年生に講座を紹介するためのチラシ（広告）作り

#### 【授業の様子】

